

令和六年度千代田学報告書

千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト

研究代表者 今井秀和
(共立女子大学文芸学部 言語・文学領域)

令和七(二〇二五)年三月三十一日

令和六年度千代田学報告書

千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト

目次

I	「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト	概要	3
	千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト		7
	千代田区怪談お散歩マップ		15
	活動の様子		74
II	千代田区怪談お散歩ツアー		37
	イベント「千代田区怪談お散歩ツアー」報告		25
	共立ホームページ掲載の報告		17
III	ちよだコミュニティラボライブ！		29
	ちよだコミュニティラボライブ！報告		74
IV	活動報告		37
	活動報告（例会議事録・現地踏査記録）		74
	学生・教員による活動の振り返り		37

I 「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト

千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト 概要

以下は、令和五年（二〇二三年）一〇月一九日提出、「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度 事業実施提案書」の一部を抜粋し、若干の編集を加えたものである。

本プロジェクトは、令和六年（二〇二四年）二月二一日付「令和六年度「千代田学」事業 審査の結果について」を以て採用が通知され、同年四月一日より令和七年三月三一日にかけての活動を実施した。

事業名…千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト

研究代表者…今井 秀和

所属・学位…共立女子大学芸学部 専任講師・博士（日本文学）

※職位は応募時（令和五年一〇月時）のもの。令和六年四月より准教授。

専門研究・活動分野…日本文学・民俗学・比較文化論

研究者・協力者…共立女子大学学部生・大学院生一〇名。

事業目的

目的…かつて千代田区で語られていた在地の伝承を掘り起こして未来に継承するため、文献調査および実地踏査を行った上で散策地図を作製する。地図を片手に千代田区を散策することで、現代の千代田区の風景や各種サービスを享受しつつ、かつて千代田区で生活していた人々の世界観を現代の現実世界に重層化（レイヤー化）し、前近代の千代田区が有していた豊穡なイメージの追体験を可能とする。いわば、バーチャルな江戸と令和の街とを同時に歩く試みである。

具体的には江戸期の随筆を主な資料体とし、千代田区ゆかりの怪談奇談を、古地図および現代の地図にマッピングする。江戸随筆などの古記録には、平将門の首塚をめぐる祟りや、堀端に出たという河童、昌平橋に出たという幽霊、鉢植えの土から出てきた鯉など、様々な怪談奇談が記録されている。

千代田区は、江戸期の記録を中心に、数多くの伝承を擁する土地である。しかしながら、近代化を経て街並みが大きく変わった現代において、当時の景観と結びついて語られていた伝承はほとんど忘れ去られている。本プロジェクトでは江戸期の怪談奇談を地図に落とし込み、印刷物として刊行して実際の千代田区を散策することにより、在りし日の江戸の面影を追体験することを目指す。将来的には日本語以外の言語対応やインターネットを利用したサービスの拡充も視野に入れつつ、まずは紙媒体での配布と散策イベントを通じて、伝承の掘り起こしと継承とを実現させる。

千代田区との関連性

千代田区はかつて江戸城を擁し、武家や町人など様々な人々が生活し、活動する土地であった。さらに現在は住民に加えて他の様々な地域から学生や社会人がやってくる土地である。しかしながら、その土地が持つ歴史や伝承については、十分に理解・共有されているとは言いがたい。そこで本研究では、一般層の興味関心とも重なる在地の怪談奇談を利用する。その理由としては、それが一般層の興味を惹き得るコンテンツであることに加えて、口頭伝承のうち、特定の土地ととくに分かちがたく結びついているのが怪談奇談であることがあげられる。

地域への貢献

本研究はいわば、眠っていた観光資源としての江戸の怪談奇談を掘り起こし、活用する試みである。ここでは金銭的な投資を通じて新たな観光スポットを作るのではなく、学生たちによる新鮮な視点から潜在的な観光資源を再発見し、社会還元していくことになる。千代田区で暮らし、働き、遊ぶ人々に、かつて千代田区界隈で語られていた在地伝承を分かりやすく伝え、実際に歩いて伝承を追体験して貰うことで、本来、この土地が持っているが積極的には活用されてこなかったポテンシャルを引き出し、千代田区の魅力に大きなプラス要素を与えることが可能となる。本研究は、何も知らなければただ通り過ぎるだけであった街並みに、潜在的に備わっていた数多の「物語」を投影するプロジェクトであり、怪談奇談を起点として、その背景にある歴史への視線をも開く効果が期待される。

事業計画

- ① 学生を主体に散策地図のデータ作成を行い、パンフレット形式で印刷する（専門業者に依頼）。
- ② 完成した散策地図の無料配布を行う。また、人数に制限を設けた上で散策イベントの参加応募を受け付け、実際

に散策地図を用いての散策イベントを実施する。

研究方法

学生を中心に、千代田区の伝承のピックアップおよび資料の整理を行う。その際、研究代表者による調査資料をベースに用いた上で、更なる拡充をはかる。

1. 近世随筆に記録された江戸期の伝承を中心に、怪談奇談の舞台や、それらが語られた場所を、当時の地図に落とし込む（古地図マッピング作業）。

2. 近世随筆に記録された江戸期の伝承を中心に、怪談奇談の舞台や、それらが語られた場所を、現代の地図に落とし込む（原稿地図マッピング作業）。

3. 伝承によっては、舞台となった場所を狭い土地に限定し難しいものもある。そのためマッピングの際には、実際に現場を訪れて、現在の状況を調査し、作業の正確性をはかる。具体的には以下のような作業を行う。写真および動画の撮影や録音機器を使った聞き取りなどを通じて実地調査を行い、江戸期の面影を探す。

- ・ 変わらない点の抽出…地形、構造物など。
- ・ 変わった点の抽出…変更された地形、新たな構造物など。

スケジュール

四月～六月 先行研究をもとに、文献資料の調査を行う。ベースとなるデータの入力作業。

七月～九月 文献調査データをもとに、学生主体での現地踏査を行う。

一〇月～一二月 作業を分担しての、散策地図および伝承解説の作成。

一月～三月 散策地図の印刷を完了する。配布を兼ねた散策イベントの実施。

研究成果の発表

手に取って歩ける散策地図（千代田区怪談お散歩マップ）を完成させ、刊行した上で、散策地図の配布を兼ねた散策イベントを実施する。広報に当たっては、安全に配慮して定員を設けることになる。

まずは大学施設内に集合して散策地図を配布し、趣旨を説明した上で、実際に街歩きを行う。街歩きをサポートするのは学生ボランティアによるガイドである。散策地図において、マッピングした怪談スポットをめぐるコースは幾つか設定することになるが、実際の散策イベントにおいては子どもや高齢者をはじめとした様々な人々が参加することを想定し、時間的・体力的に無理のないコースを歩くこととする。イベントを実施する上では、入念な下見と模倣的な散策を繰り返し、安全に配慮する。

また、「ちよだコミュニケーションラボライブ！」での発表を行う。

学生の活用

研究会活動

文献および実地の調査は、共立女子大学の学生有志を中心として新たに発足させる研究会活動の一環として行う。（これにより実地調査・イベント時もボランティア保険の適用範囲内となる）

学生アルバイトの活用

データ入力、図版作成の作業などに、アルバイトとして上記研究会から数名の学生を活用する。

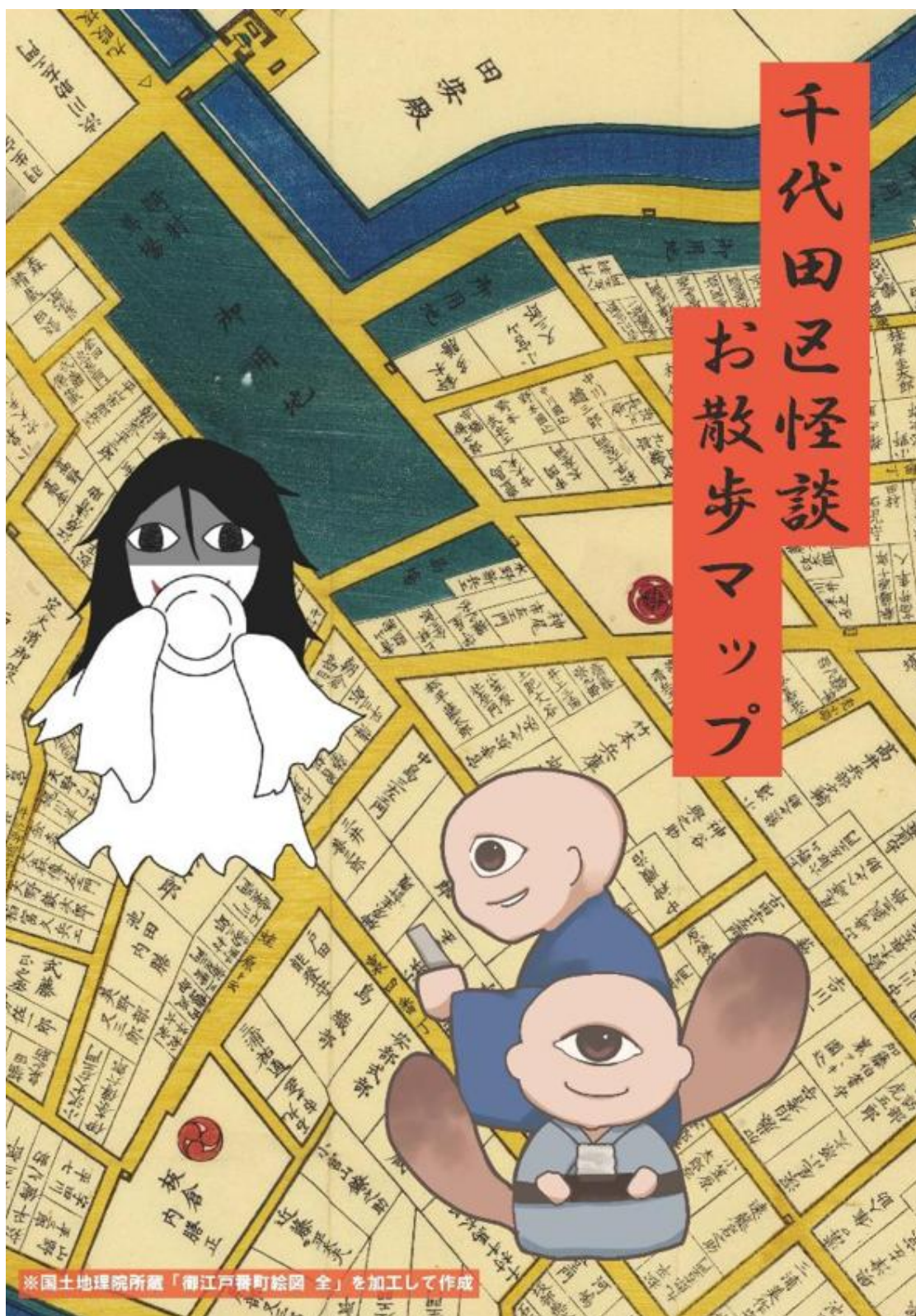
学生ボランティアによるガイド

散策イベントの際は、共立女子大学の有志を中心とする上記研究会活動に参加している者の中から学生ボランティアを募る。当日のイベントをサポートする学生は、ボランティア保険に加入する。

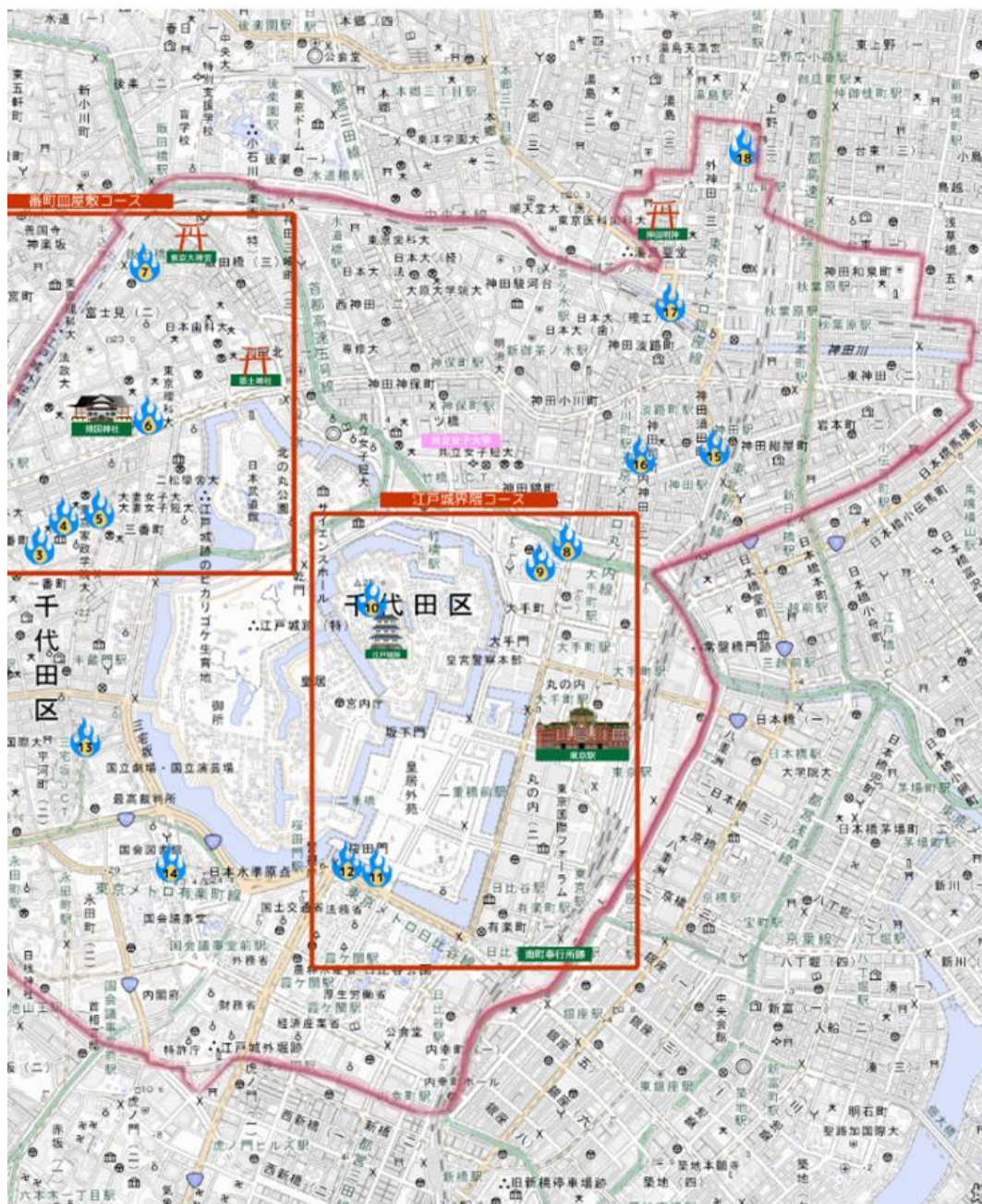
以上

成果物 「千代田区怪談お散歩マップ」

表表紙・裏表紙を含め全八頁（オールカラー）、A4版のパンフレット。四〇二〇部を印刷し、以下各所を中心に、千代田区内外に配布。千代田区役所、千代田区観光案内所、千代田区立図書館、ちよだボランティアセンター、千代田区内の大学等研究・教育機関各種、共立女子学園（共立女子大学、共立女子短期大学、共立女子大学図書館、共立女子大学博物館、共立女子中学高等学校、共立女子第二中学校高等学校等）。



※国土地理院所蔵「御江戸番町絵図 全」を加工して作成



※電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成

千代田区 怪談マップ

番町血屋敷コース

- 01 化物屋敷（三年坂／五番町10番地～12番地）
番町には化物屋敷が多く、三年坂にも女の怪が出現する化物屋敷があったという。『梅翁随筆』
- 02 帯坂（九段南四丁目～五番町）
四谷怪談のお岩さんや血屋敷のお菊さんが帯を引ずって走ったと伝えられる。
- 03 蛙合戦（法眼坂辺り／行人坂＝法眼坂 周辺）
時折、蛙の合戦が行われるといい、見物人が出るほどであった。『耳袋』
- 04 喋る鯛い猫（番町辺り／千代田区西部）
ある日、番町の武家で飼っていた猫が「残念なり」と喋った。『耳袋』
- 05 先妻の霊（番町辺り／千代田区西部）
美しい後妻を妬んだ先妻の霊が現れ、後妻は狂乱状態に陥ったという。『耳袋』
- 06 うずくまるもの（番町馬場／九段北）
道の傍らに女のような者が蹲っていたが、少し目を離した隙に消えた。見た者は熱病を患った。『耳袋』
- 07 血明神（桐生稲荷／富士見町）
血屋敷の井戸の跡地とも伝えられ、血明神として祀られた。『江戸砂子温故名跡誌』

江戸城境界コース

- 08 猫の血を吸う「のぶすま」（鎌倉河岸辺り／内神田）
羽のようなものを持ち、猫を襲って血を吸う野禽（のぶすま）なる獣が出没した。『梅翁随筆』
- 09 将門塚（首塚）（大手町1-2-1）
平将門公の首が埋められているという首塚は、現代でも畏敬の対象としてあり続けている。
- 10 大奥の怪談（江戸城／千代田区千代田）
江戸城の大奥でも百物語など、夜な夜な怪談が語られたという。『定本 江戸城大奥』
- 11 鉢植えから出てきた鯉（桜田門辺り／皇居外苑）
鉢植えの土から鯉が出てきた。鯉になるかもしれないというので、桜田門辺りの堀へと放した。『耳袋』
- 12 お堀に棲む河童たち（江戸城近辺の堀／皇居周辺）
江戸城近辺のお堀では河童がたびたび目撃されており、時には人を堀に引き込もうとすることもあった。
- 13 謎の投石事件（平河天神辺り／平河町）
連日続いた謎の投石。狐狸のしわざとも、天神の手水鉢で力士が豚を絞めた罰とも噂された。『藤岡屋日記』
- 14 蛇の昇天（永田馬場辺り／永田町）
とある夫婦が蛇を飼っていた。ある日、急に天候が悪くなると、庭から一気に天へと昇っていった。『耳袋』
- 15 四谷怪談の上演（神田永富町／内神田）
四谷怪談の芝居が好評のため、永富町でも席を張り出して増設したが落下してしまった。『藤岡屋日記』
- 16 ろくろ首との結婚（佐柄木町／神田司町）
頼輿首だという噂で縁遠くになっていた娘。噂を信じめ佐柄木町の若者と結婚し、幸せに暮らした。『耳袋』
- 17 昌平橋の幽霊（昌平橋／外神田）
昌平橋で知人に会って話をしたが、その人がすでに亡くなっていたことを後から知った。『耳袋』
- 18 下女の失踪（小倉藩中屋敷／外神田）
小倉藩中屋敷の下女（女中）が行方不明になった。縁の下で発見されたが、間もなく死んだ。『梅翁随筆』

そのほか



番町四屋敷コース



※電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成



Pick UP!!

1 番町の化物屋敷

三年坂

五番町十番地と十二番地

番町には化物屋敷が幾つもあったという。ある町医者が、番町辺りの屋敷に呼ばれて奥方の診察に赴いたときのこと。座敷に通されて待っていると、十二、三才ほどの小僧がお茶を運んできた。話しかけると恥ずかしがって障子の間に逃げたが、突然、顔が大きく膨れた一つ目の化物となって消え失せた。やがてやって来た主人は町医者からその様子を訊くと、それはもしかしたら顔ではありませんでしたかと言いやいなや、さきほどよりも大きな顔の一つ目の化物になった。たまたま町医者が逃げ出すと、玄関にいた草履取りもまた、大頭の化物に姿を変えた。町医者はついに氣を失ってしまい、その後、家の者が迎えに来ても、しばらくは口がきけぬ有り様だった。後で聞けば、ここは化物屋敷として知られており、化物の正体は古狸だということだった（『怪談登志勇』）。

また、六番町三年坂（現・五番町）にも化物屋敷があり、夜になると行燈に照らされた女の顔が長くなったり短くなったり、きわめて恐ろしい顔になったりすることがあったという（『梅嶺隨筆』）。

2 帯坂

九段南四丁目と五番町

怪談「番町皿屋敷」のお菊さんが髪を振り乱して帯を引きずりながら通ったと伝えられるが、別の伝承では四谷怪談のお岩さんだともいう（『綿谷雪』、『江戸ルポルタージュ』、横関英一「江戸の坂、東京の坂（全）」）。

番町皿屋敷のお菊さんは、華公先の武家屋敷で家宝の十枚揃いの皿を一枚割ってしまった。主人と奥方に折檻されたあげく井戸に落ちて死に、主家に祟る怨霊となった（『皿屋敷并縁起』）。この皿屋敷の物語には、お菊さんが走るといふ描写はない。一方、「四谷怪談」のお岩さんは、何も知らずに悪い夫の伊右衛門から厄介払いとして番町の武家屋敷（現・靖国神社あたりの三番町）に華公に出されていたところ、ある日、夫が別の女と暮らしていることを知り、狂乱状態になって番町から四谷方面に走り去ったという（『横文・古今怪談』）。お岩さんものに怨霊となり、自らに仇を為した夫たちに祟ることとなる。

帯坂の伝承は、そもそもはお岩さんにまつわるものとして伝えられていたようにも思われるが、いずれにせよ江戸怪談を代表する二人の女幽霊にちなんだ伝承を持つ名所である。

4 喋る飼猫

番町辺り 千代田区西部

番町あたりのとある武家では、代々、猫を飼うことをしなかった。その理由は以下のようだったという。昔、この武家では一匹の猫を飼っていた。ある時、縁側の端に雀が二、三羽いた。かの猫は雀に狙い飛び掛かるが、雀は素早く飛び去ってしまった。これを見た猫は子どものような声で「残念なり」と言った。驚いた主人は猫に飛びかかって火箸でとり押さえると、「畜生の身でありながら物を言うとは怪しいことである」と言って殺そうとした。すると再び「物を言うてなどないのに」と喋ったため、主人は驚いて手を緩めてしまった。その隙に猫は逃げ、行方知れずとなった。以降、この屋敷では猫を飼うことを固く戒めるようになったというのである（『耳袋』）。

江戸期の日本には猫の怪異にまつわる話がたくさんあり、江戸城を中心とした江戸においても、化け猫などが出没したという話が少なくなかった。ちなみに、さきほど引用した『耳袋』にはもうひとつ、猫が「残念なり」と喋ったという話が載せられている。同書は江戸南町奉行であった根岸肥前守鎮衛による随筆であり、現在の千代田区界隈を舞台とする怪談も数多く記録されている。なお江戸南町奉行所は現在の有楽町駅あたりに存在していた。

江戸城界隈コース



※電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成

注

皇居周辺の散策については、あらかじめ参観可能な区域や時期、時間帯などを宮内庁ウェブサイトでご確認の上、お出かけ下さい。

Pick UP!!

9 将門塚（首塚）

大手町1・2・1

神田明神創建の地である将門塚は別名「首塚」とも呼ばれ、平将門の首が埋められていると伝えられる。平安時代の武将であった平将門は京都の朝廷に反旗を翻したが、故郷の下総国猿蓑（現・茨城県坂東市）で藤原秀郷（依羅太）らに討ち取られた。京都で晒されることとなった将門の首は関東めがけて空に飛び上がったものの、途中で力尽きると落下してしまった（『前太平記』）。

こうした伝承は日本各地に残されているが、東京の在地伝承では、地に落ちた将門の首を埋葬したのが大手町の将門塚（首塚）だと語られてきた。江戸期の首塚は酒井雅楽頭家の敷地内に位置しており、明治に入るとその一帯は明治新政府の大蔵省所有となつて庁舎が建設された。しかし大正十二年（一九二三）の関東大震災で庁舎は焼失し、再建のために首塚は取り壊された。すると大蔵大臣の急死や職員らの傷病などが相次ぎ、これらは将門の怨霊によるものと噂された。昭和に入ってから庁舎の焼失や米軍作業員の事故死などが将門の祟りと関連付けて語られた。戦後、首塚周辺の土地が民間企業の所有となつて以降も、近隣のオフィスで働く人々によって首塚は畏敬の対象となつている（笠井康成『首塚・明塚・千人塚』）。

10 大奥の怪談

江戸城 千代田区千代田

大奥に仕えるあらしという女中が、ある日の朝に姿を消した。一向に帰つてこず相部屋の者が探しに出たが、夜になつても影すら見えない。行方不明から三日後の深夜、天守台を見張っていた番達の上から、しわがれ声で「あらしはここに」と聞こえると、その死骸が逆さまに落ちてきた。夜の天守台に登る者などおらず、あらしは常々天守へ上つてみたいと話していたために魔物に魅入られたのか、はたまた天狗にいたずらされたのか死骸は掻きむしつたような血だらけの姿であった（『文政奇談物語』三田村廉魚『御殿女中』所収）。

江戸城の敷地内には狐狸の噂が多く、たびたび女中を化かしていた。夜半に女中の真似をして「オタン」（「お頼み申します」の意）と声をかけたり、白装束を着て青ざめた顔色の女中に化けたりしては人々を脅かしていたという。一方で怖いもの見たさから、女中たちが百物語怪談会を開くこともあった。あるとき、女中の一人が部屋に裏くと「オタン」と声がかかり、恐れ多くも田安家の紋が入った風呂敷に障子戸を包んだものが投げ込まれた。気味が悪くなり、その後、百物語を行う者はいなかったという（『定本 江戸城大奥』）。

12 江戸城の堀に棲む河童

江戸城近辺の堀 皇居周辺

江戸城の堀に棲んでいた河童の話は幾つもある。たとえば寛政年間、一番町の堀端に出現した河童は一九〇センチ近い大きさだったといい、別の時に武士の足にまとわりついて殺されそうになった河童は一命をとりとめた後日、同じ武士に何度もお詫言をしたという（『鯉川家文書』）。

また、武士の従者が桜田門から半蔵門にかけての「井原堀」（現・桜田堀）を通りかかると、堀の中から小さな子供が手招きしていた。子どもがおぼれていると思い、助けようとする、堀に引き込まれそうになった。あわてて振りほどいたが、体からは悪臭がなかなか抜けず、しばらくは体調も優れなかった（『甲子夜話』）。

麹町一丁目の堀端では、雨具を持たずに濡れながら歩く子どもを不憫に思った浪人が傘を貸そうとしたところ、突然、腰を掴んで堀に引きずり込まうとした。浪人は命からがら逃げたが、その後も河童を恐れて、決して堀端には近づかなかったという（『怪談老の杖』）。





「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクトについて

本プロジェクトは、地図を片手に、千代田区に隠された幽霊や妖怪、奇妙な噂の「記憶」をたどり、追体験して頂くことを企図して結成されました。地図に示した2つのコース以外にも自分なりのコースを作って、安全に配慮しつつ怪談散歩を楽しんで下さい。

江戸時代、日本の中心であった江戸城（現在の皇居）を含む千代田区一帯は一種の「情報社会」を形成しており、真偽不詳のまま様々な噂話が飛び交っていました。その中には災害や事件、痛ましい事故などに関する怪談も含まれていました。また、現在の千代田区界隈は都市でありながら豊かな自然を擁していたことから、野山に棲む狐狸や、お堀や川などに潜むと考えられていた河童、山から来たのであろう天狗などの妖怪にまつわる噂話も多く語られました。こうした「物語」を体感し、江戸／東京の歴史・文化をより深く理解して頂ければと思います。

令和6年度「千代田学」採択課題

「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト一同
(共立女子大学 学部生・大学院生10名および文芸学部 今井秀和研究室)

研究会の風景



色々なパンフレットを
見ながら相談中（2024年4月）



お散歩マップのイラストは
全て学生たちが担当

活動の様子



資料を読み込む（2024年5月）



現地踏査を前に（2024年8月）



お散歩ツアー反省会（2024年11月）



千代田区役所での報告を控え
打ち合わせ（2025年3月）

現地踏査



皇居、清水門橋から
お堀を眺める（2024年7月）



江戸南町奉行所跡
（2024年7月）



共立女子大学3号館
にて（2024年7月）



皿屋敷のお菊さん or 四谷怪談のお岩
さんが帯を引き摺って通った帯坂
（2024年10月）



桐生稲荷（皿明神）
（学生現地踏査 2025年1月）



将門塚（首塚）にて（2024年9月）



夜の帯坂（教員個人の現地
踏査で撮影 2024年7月）



江戸城の痕跡を探して
（2025年1月）

千代田区怪談お散歩ツアー



一般の方々を案内しつつ
千代田区内を散策



東郷公園にて、参加者に番町
近辺の怪談を紹介する様子



築土神社にて解散



当日配布した、試作段階の
「千代田区怪談お散歩マップ」(仮)



四谷怪談のお岩さんや
皿屋敷のお菊さんが通った
と伝えられる「帯坂」

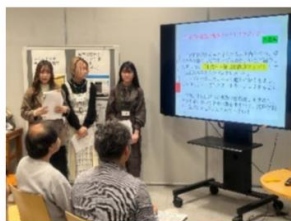


江戸時代には御用地騎射
馬場の一部だった靖国神社

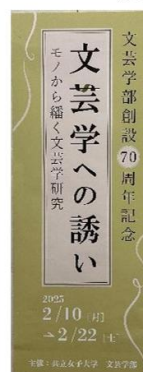


活動の様子

ちよだコミュニティ ラボライブ！



文芸学への誘い



文芸学部創設70周年記念展示「文芸学への誘い」
に「千代田区怪談お散歩マップ」(仮)を展示

Ⅱ 千代田区怪談お散歩ツアー

イベント「千代田区怪談お散歩ツアー」報告

イベント詳細

全一三名参加（うちプロジェクトの教員一名、学生八名）。

スタッフ外の当日参加者、四名（全て千代田区内に在住、あるいは通勤・通学している方） ※事前エントリーの時点では八名）。

実施後の課題と反省点

今回のイベントは、学外からの参加者および学生スタッフ双方の安全に配慮して、あまり広範に周知することはせず、千代田区内におけるポスター・チラシの掲示や、関係者の伝手をたどって参加者を募るかたちをとった。具体的な周知方法としては、千代田区の図書館や観光案内所、ボランティアセンターなどにチラシを置いてもらい、また、共立女子大学内の各所にもチラシを置き、またポスターを掲示するなどした。結果として、少人数ながら千代田区内に在住、あるいは通勤・通学している四名の方の参加を得ることができ、安全面から言っても大きな問題なく、無事に終わることができた。ただし事前エントリー時点ではもう少し参加希望者がおり、事前エントリーから当日参加への歩留まりを読むのが難しいという教訓を得た。

以下、当日のスタッフに配布した案内原稿。（個人情報など一部に修正を加えた）

二〇二四年十一月十六日（土）千代田区怪談お散歩ツアー 当日の流れ、各ポイントでのガイド内容

一三時頃 スタッフ集合 ※チラシを持って改札近くの邪魔にならないところにスタンバイ。

今井…事前エントリー名簿を手に、参加者（らしき人）の出欠を確認していく。

一三時二〇分 参加者集合

今井…参加者に自己紹介と挨拶。学生…名簿の最終確認および資料の配布。

以降は学生ガイド主導で進めていく。問題が生じたらすぐに教員へ報告・相談。

一三時三〇分 出発 ※事前エントリー者が不在の場合も時間通りに出発。

それでは出発しますので、ガイドに続いてお進み下さい。安全に気を付けて参りましょう。最初のポイントは、すぐ目の前にある「帯坂」という坂です。

↓帯坂を登る際、ここが帯坂であることを伝える。

一三時三五分 帯坂

・皿屋敷、四谷怪談の簡単な解説と、帯坂のいわれについて

学生ガイドA…いま登ってきたのが帯坂です。番町皿屋敷のお菊さん、あるいは四谷怪談のお岩さんが帯を引きずって通った、という言い伝えがある坂です。皆さん、番町皿屋敷と四谷怪談のお話はご存知かと思いますが、うる覚えだという方もいらっしゃるかもしれません。そこで、あらためて簡単にご説明致します。

千代田区番町を舞台とする番町皿屋敷の物語は、武家にとめる女中のお菊さんが、家宝のお皿を一枚割ってしまったことで主人夫婦に折檻せつかんされて殺され、ついには井戸に投げ込まれたのちに怨霊になった、というものです。一方、

新宿区の四ツ谷を舞台とする四谷怪談は、夫に裏切られ、毒を盛られるなどして恐ろしい姿に変貌してしまったお岩

さんが怨霊と化す物語です。鶴屋南北つるやなんぼくによる歌舞伎『東海道四谷怪談』とうかいどうよつやかいだんが有名ですが、それ以前からお岩さんにまつ

わる怪談は知られていました。南北『東海道四谷怪談』以前の話については、また追ってご説明致します。それでは、

続いて東郷公園へ向かいましょう。

※ 続いてのスポットである東郷神社、靖国神社にはトイレがあることをアナウンス。

一三時五〇分 東郷元帥記念公園

・「怪談」ツアーの簡単な説明、東郷公園についてのひと言

ガイドB…江戸怪談には、怪談の舞台として「番町あたり」など、おおよその地名しか書いていないことも多くあります。そこで、近代以降に整備された東郷平八郎（とうごうへいはちろう日露戦争でロシアのバルチック艦隊を撃破した）ゆかりの公園でくつろいで頂きつつ、江戸期の番町近辺に伝わっていた怪談を紹介したいと思います。

・番町の説明 そもそも「番町」は、江戸城や江戸市中の警備に当たっていた旗本（はたもと）のおおばんぐみの屋敷が連なっていた場所でした。化物屋敷の噂話がいくつもあつたようですが、それは、同じような建物がたくさんあつて迷う人も多かつたからかもしれません。ちなみに、皿屋敷にまつわる怪談は、兵庫県姫路市（ひょうごけんひめじ）を舞台とする『播州皿屋敷』（ばんしゅう）をはじめとして日本全国五〇カ所ほどに分布していますが、江戸における「皿屋敷」の話が番町を舞台にしていることには、化物屋敷の噂が多かつた番町という土地柄が関係しているようにも思われます。なお現在の一番町から六番町は近代に入ってから新たに付けられた地名であり、江戸期における番町の区分とは異なります。

・番町の化物屋敷 さて、ここでご紹介するのは、番町を舞台とする「化物屋敷」怪談のうちの一つです。

〈怪談マップをもとに解説〉

・『耳袋』の蛙合戦 また『耳袋』という随筆には、法眼坂（ほうげんざか）界限では時折、蛙の合戦があり、討ち死にした死体もたく

さん転がっていて、近辺の者が見物に来ることもあったと記されています。現代では、これは蛙の「群婚」と言って、一匹のメスを数匹のオスが取り合う様子だったと考えられています。

なお『耳袋』とは、江戸時代中期から後期にかけての様々な情報を盛り込んだ随筆で、そこには現在の千代田区を舞台とする怪談の類も数多く載せられています。この『耳袋』の著者は、江戸南町奉行だった根岸鎮衛ねぎしやすもりですが、南町奉行所は現在の有楽町駅付近に位置しており、有楽町駅前には南町奉行所跡のモニュメントがあります。

さて、次に向かうのは靖国神社ですが、東郷公園から靖国神社に向かう途中にある二七通りにしちには、現在はビル状の建物になっている「二七山不動院にしちざん」という真言宗の寺院があります。このお寺は、東郷平八郎の信仰が厚かったことでも知られています。それでは、靖国神社に向けて出発しましょう。

一四時一五分 靖国神社 一四時二〇分〜一四時三〇分 休憩

※休憩時間に入る際、必ず全員に「集合時間」と「集合場所」をはっきり伝える。

↓解説ポイントに移動

ガイドC…さて、本日最初のポイントだった帯坂では「四谷怪談」のお岩さんのお話をご紹介しましたが、鶴屋南北つるやなんぼく台本の歌舞伎『東海道四谷怪談』の初演である文政八年（一八二五年）以前に出版された、『模文画今怪談ももんがこんかいだん』という絵入りの怪談集があります。唐来参和とうらいさんなが文を書き、鳥文斎栄之ちようぶんさいえいしが絵を描いたもので、天明八年（一七八八）に刊行されました。

そこには、厄介払いとして武家屋敷へと奉公に出されていたお岩さんが、四谷に残した夫が別の女性と一緒にになっていたことを知り、狂乱して四谷方面に走り去った、と記されています。そして、奉公先の武家屋敷があったのが、現在の靖国神社近辺である三番町でした。

この話を踏まえると、帯坂を通ったと伝えられていたのはもともと四谷怪談のお岩さんであって、それがのちに「番町」を代表する物語であった番町皿屋敷のお菊さんと混同されたようにも思われます。

※以下、もし時間がなければ適宜、割愛する。

・「番町にて奇物に逢ふ事」『耳袋』 番町界限には、ほかにも様々な怪談が残されています。続いては、東郷公園で

もご紹介した、江戸南町奉行・根岸鎮衛ねぎしやすもりの『耳袋』に記録された、奇妙なお話をご紹介します。ある雨風が激しい秋の夜、番町辺りを二人の男が歩いていました。すると道の端に、とても怪しい雰囲気を醸し出した「うずくまるもの」を見かけます。

はじめは「女のようなもの」として認識していましたが、あらためて見ると女かどうかともわからなかったといえます。そして、ちよつと目を離れた隙に、この謎の存在は姿を消してしまいました。うずくまる物と遭遇した二人の男は後に約二〇日続く熱病に苦しんだそうです。『耳袋』は、このうずくまる得体のしれない何物かを「奇物」（奇妙な物）と表現しており、熱病の気が形を成したのだろうと結論付けています。

・「猫の怪異の事」『耳袋』 また『耳袋』には、番町辺りにいたという、しゃべる猫のお話もあります。

〈怪談マップをもとに解説〉

この猫の話以外にも『耳袋』はもう一つ、猫が「残念なり」と喋ったという話があります。江戸期の日本には猫の怪異にまつわる話がたくさんあるので、興味がある方は調べてみてください。

一四時四〇分 靖国神社 出発

一四時五〇分 築土神社 到着（築土神社 到着時間が遅くなった場合はガイド内容を短くする）

ガイドD…皆様お疲れさまでした！こちらが本日最後のスポットの「築土神社」です。

築土神社の御神徳はこの後ご紹介する主神にまつわる「工事安全」、初代神武天皇より絶えず繁栄を続けてきた国の「子孫繁栄」などとなっています。

築土神社には、平将門公の霊が祀られています。ご存知の方も多いと思いますが、千代田区には神田明神、大手町にある首塚と呼ばれる将門塚など、将門公の霊を祀る場所が多く存在しています。有名なものですとここからそう遠くない場所にある神田明神、日本橋兜町にある兜神社、新宿区筑土八幡町にある筑土八幡神社が平将門をお祀りしています。

首塚には、京都の朝廷に反旗を翻し、故郷である下総しもとうさのくに国くに猿島さしまで藤原秀郷ふじわらのひでさとらに討ち取られた平将門の首が埋められているという話は有名ですね。京都で晒されることとなった将門の首が関東目掛けて飛び上がったものの、途中で力つきて落下した、という話もあります。

こうした伝承は日本各地に点在していますが、ここ東京では、地に落ちた将門の首を埋葬したのが首塚と語られてきました。その後関東大震災が原因で首塚の再建が行われましたが、取り壊された時に大蔵大臣の急死や職員の傷病などが相次ぎ、昭和に入ってからも庁舎の消失や米軍作業員の事故死など、将門の怨霊によるものとされる事故が発生していました。戦後に首塚周辺の土地が民間企業の所有となり、ビルが並び立ったあたとも、近隣のオフィスで働く人の畏怖の対象となっています。首塚の詳細については怪談マップ「江戸城界限コース」の頁にある9番の解説をご覧ください。

このように、平将門については様々な恐ろしい伝承がある一方、初めにご紹介したように神として祀られるなど、広く日本各地からの崇敬を集める存在でもあります。ここ築土神社も、その崇敬の存在のひとつです。初めに御神徳

をご紹介した築土神社の主神である神は天津彦火邇々杵尊（あまつひこほの）にぎのみことという神様で、天照大御神の孫にあたる神様です。邇々杵尊はこの日本を最初に統治し、「築土」の名の通り、その土台を築いたとされています。

それではただ今から五分程自由に回っていただく時間をとりたいと思います。参拝される方も見回る方も、〇時〇分にはこちらへお集まりください。最後の集合でご挨拶をした後、本日は解散とさせていただきます。

一五時 解散の挨拶

今井…本日は千代田区怪談お散歩ツアーにご参加下さり、ありがとうございました。最後に筑土神社にお参りしたことで、きっと皆さんにまわりついた怪談の厄は落とされ、安全にお帰り頂けることと思います。学生ガイドの案内で色々な怪談をご紹介してきましたが、千代田区には、今日ご紹介できなかった怪談奇談がたくさんあります。その一部はお散歩マップに載せてありますので、お時間のある時にぜひ周ってみて下さい。

なお、今日みなさんから頂戴したご意見を活かしてバージョンアップさせた上で、後日、最終版のマップを印刷して千代田区の各所で配布する予定です。ぜひとも、スタッフまでご意見ご感想をお寄せ下さい。それでは本日のお散歩ツアーにご参加下さり、ありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰り下さい。

緊急連絡先

最寄りの病院…東京通信病院

最寄り警察署…市ヶ谷見附交番、九段下交番

以上

当日寄せられた意見

- ・ 学生たちの説明や案内が分かりやすかった。道を歩く時の配慮もさすがだなと思った。
- ・ 次は江戸城界限コースのイベントを希望。
- ・ 石碑などのモニュメントを目印とし、マップの怪談と結びつけることで、より実感が湧くようになるのではないか。
- ・ マップにコラムなどがあってもよい。

- ・ 学生の入念な事前準備の様子が窺えるツアーだった。
- ・ お客さんが少なかったのが残念。
- ・ 目印となる実際の物がほとんど残っていないところが難しいところ。ここが怪談の場所、とはっきり言えないことに加えて、当時を偲ばせるものが残っていない。
- ・ 音声案内なしでどこまで散歩そのものを楽しませられるかが腕の見せ所か。

- ・ とても楽しめた。ほかの場所へも行ってみようと思う。
- ・ 完全版のマップ完成が楽しみ。
- ・ 漢字によってはルビが入っていると読み易いと感じた。

- ・ 今回、江戸の中心である江戸城まわりを歩いたのは初めてだった。
- ・ 子どもの頃、地元の商店街が主催した怪談ツアーに参加した経験思い出した。しかし、いまは商店街も活気がなく、ツアーも開催していないようだ。街に人が集まらなくなると、伝承する物語も風化してしまうのかと残念な気持ちになる。

- ・ 物語の舞台を散策しながら実地の空気感を肌で感じて、帰宅して関係した書物で本文、解説にあたり、その舞台を再び追体験していくことは贅沢な楽しみ。

※ 参加者の許諾を得て掲載。

共立ホームページ掲載の報告

※学生たちによる文章をもとに今井が編集。（報告書収録に際し、横書き英数字を漢数字にするなどの修正を行った）

【社会連携】千代田学「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト　く千代田区「怪談」お散歩ツアー開催（学生レポート）

[<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/collaboration/news/detail.html?id=5164>]（11月17日更新）

江戸怪談をマッピングしたパンフレット形式の地図を片手に、千代田区内に隠された幽霊や妖怪、奇妙な噂の「記憶」をたどり、追体験してもらう。これが「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクトです。千代田区にゆかりのある一般の方々に参加を募り、二〇二四年一月一六日（土）、現在作成中の「千代田区怪談お散歩マップ」（仮）の配布を兼ねた千代田区「怪談」お散歩ツアーを開催しました。当日は、「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト（令和六年度「千代田学」採択課題）参加学生が運営に携わりました。



現在作成中の「千代田区怪談お散歩マップ」（仮）

一般の方々を案内しつつ千代田区内を散策する様子

「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト参加学生チームによるレポートをお送りします。

千代田区「怪談」お散歩ツアー開催（学生レポート）

一月一六日（土）、お散歩マップを片手にJR市ヶ谷駅から出発して、最初に訪れたのが帯坂です。この坂は、四谷怪談のお岩さん、あるいは番町皿屋敷のお菊さんが帯を引きずって過ぎ去ったと伝えられています。たまたま通りがかった現地の方が「ここは皿屋敷のお菊さんゆかりの坂だよ」と教えて下さり、あらためて、伝承の「現場」を歩くことの重要性に気付かされました。



四谷怪談のお岩さんや皿屋敷のお菊さんが通ったと伝えられる「帯坂」

次にやって来たのが東郷公園です。江戸期の随筆や日記などに載る怪談には、おおよその場所しか記されていないものも多く、そのため、番町界隈の怪談はここで紹介しました。狸が一つ目入道に化けて現れたという三年坂の化物屋敷にまつわる噂や、東郷公園のすぐ横を通る法眼坂辺りで蛙の合戦が行われていたという噂などを紹介しました。



東郷公園にて、参加者に番町近辺の怪談を紹介する様子

靖国神社に移動したのち、少しの自由時間を設けてから、続けて番町近辺を舞台とする怪談を紹介しました。番町馬場辺りを歩いていた二人連れの男が、路傍にうずくまる何者かに遭遇したのち熱病に苦しんだという噂や、鳥を捕まえ損ねた猫が「残念なり」と喋った話などを紹介しました。



江戸時代には御用地騎射馬場の一部だった靖国神社

さて、ツアーの締めくくりに訪れたのが築土神社です。ここでは神田明神や築土神社、大手町の将門塚（首塚）など、千代田区各地に祀られている平将門が、ときに怨霊として畏れられ、ときに神として祀られてきた歴史を紹介しました。最後に築土神社へ参拝したことで、あちこちの怪談スポットで拾ってきてしまった（かもしれない）厄を落として、無事に解散することができました。



最後に訪れたのは、平将門公の霊を祀る築土神社

「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト
参加学生と今井秀和准教授

学生レポート担当…「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト（令和六年度「千代田学」採択課題）参加学生

Ⅲ ちよだコミュニティラボライブ！

ちよだコミュニティ ラボライブ！ 報告

日時…二〇二五年三月二日（日）

会場…千代田区役所

千代田区「ちよだコミュニティラボ」ホームページ（二〇二五年三月一日公開）

https://chiyo1ab.jp/lablive25entry/lablive25_univ

内容紹介文

千代田区は、江戸期の記録を中心に、数多くの伝承を擁する土地です。しかしながら、近代化を経て街並みが大きく変わった現代において、当時の景観と結びついて語られていた伝承はほとんど忘れ去られていると言えます。本プロジェクトは、江戸期の怪談奇談を散策地図に落とし込み、手軽に持ち歩ける冊子として刊行するものです。

具体的には江戸期の随筆や近代の文献などに載る、平将門を祀った将門塚（首塚）をめぐる崇りの噂や、江戸城界限の堀端に出たという河童、昌平橋に出たという幽霊、鉢植えの土から出てきた鯉など、千代田区ゆかりの様々な怪談奇談が現代の地図にマッピングされています。

この「千代田区怪談お散歩マップ」を片手に実際の千代田区を散策することで、現代の千代田区の風景や各種サービスを楽しむつつ、かつてこのエリアで生活していた人々の世界観を現代の現実世界に重層化（レイヤー化）することが可能となります。在りし日の江戸の面影という、前近代の千代田区が有していた豊かなイメージの追体験は、バーチャルな「江戸」と令和の街とを同時に歩くという温故知新の試みでもあります。

※併せて一〇分程度の活動紹介動画（パワーポイント＋研究代表者のナレーション）を作成し、ホームページ上に公開

出席者…学生六名、教員一名。

学生による報告

二〇二五年三月二日（日）

ちよだコミュニティラボライブ！2025「まちの文化祭 1Day Fun Live@CHIYODA」内「大学連携 千代田学研究発表」での報告（於千代田区役所 一階 区民ホール）

「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト報告（一五時二〇分～一五時三五分）
参加学生六名、教員一名。

「大学連携 千代田学研究発表」ブースには各プロジェクトを紹介するパネルが掲示された。また、以下の順番で、それぞれのプロジェクトを担当した教員および学生による口頭発表が行われた。「千代田区民と食と農の課題について 畑で考える」（明治大学 農学部 アグリサイエンス研究室）、「神保町・駿河台下交差点周辺地区のまちづくり協議に関する調査」（明治大学理工学部建築学科、共立女子大学建築デザイン学部、日本大学理工学部建築学科）、「創作作品における坂道の研究を通し千代田区の坂を舞台にした短編映画制作」、映画「千坂物語」上映（城西国際大学メディア学部 佐藤克則（佐藤ゼミ））、「千代田区の高専教育機関（大学）としての役割の検証 ―文化的多様性における国際性に関する観光資源の調査と発信および受信」（専修大学）、「千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」（共立女子大学 今井秀和研究室）。

本プロジェクトでは、教員による簡単なプロジェクト紹介ののち、パワーポイントを併用しつつ、学生六名によるリレー形式での口頭発表を行った。口頭発表後は、他大学の参加者から本プロジェクトの学生・教員への質問や意見なども出され、活発な議論が行われるとともに、今後の様々な可能性を示す交流を行うことができた。

また、「まちの文化祭」全体のブース発表やワークショップ等が終了した後には、一般の参加者やスタッフも交えての、ランダムにテーブルを囲むワークショップが行われた。テーブルごとに、今後の「まちの文化祭」をよりよくするためのディスカッションが展開された。ディスカッションの内容を踏まえた全体への報告を行う際には、本プロジェクト参加学生も発言の機会を得て、議論の内容を分かりやすく紹介していた。

学生用読み原稿

※ 学生作成の文章に教員が加筆修正。当日は、さらに学生によるアドリブも加えての口頭発表が行われたが、以下は発表直前にメンバー間で共有した原稿である。

① 今井

（簡単な自己紹介、プロジェクトの紹介。学生の発表に繋がった上で、客席に下がる）

① 学生 A

こんにち。これから、「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクトの成果発表をさせていただきます。「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクトとは、千代田区と共立女子大学が連携した研究活動です。

共立女子大学の学部生・大学院生あわせて一〇名と、文芸学部 今井秀和研究室のメンバーで行ってきました。本プロジェクトは、地図を片手に千代田区のあちこちを歩きつつ、江戸時代にこの土地で語られていた奇妙な噂を追体験し、また、それを未来へ伝承していくことを目的としています。

「千代田区怪談お散歩マップ」には、江戸怪談をマッピングした千代田区の全体図に加えて、番町皿屋敷コース、江戸城界限コースというふたつのコースが載せてあります。

このマップをどのように作成していったのか、私たち学生の体験談や感想も交えつつ紹介していきたいと思います。

② 学生 B

表紙

いま、スクリーンに映しているのが「千代田区怪談お散歩マップ」の表紙です。

「御江戸番町絵図」という、江戸時代に作られた古地図の上に、学生が描いたイラストをデザインしています。

千代田区怪談マップ 全体図

さて、お散歩マップの表紙を開くと、いまスクリーンに映っている千代田区全体の怪談マップがあらわれます。この全体地図では、千代田区の怪談スポットをナンバリングした上で、「人魂」の形をしたマークでマッピングし、

簡単にあらすじを紹介しています。

この地図では、手に取った人が見やすくなることを重視し、何度も改訂を重ねました。

たとえば、当初は赤などの暖色で人魂マークを作成しましたが、「火災現場のように見える」という意見があり、青色に変更したりもしました。

全体地図のうち、四角で囲ってある個所が、このあとご紹介する二つのお散歩コースとなっています。それ以外に、秋葉原方面の怪談などもありましたが、こちらはコース設定をせずに場所と概要のみを掲載しています。

今回、全体地図を作っていて意外だったのが、地図上のどこからどこまでが千代田区なのかという、千代田区の全貌の把握が難しかったという点です。

そうした点も含め、プロジェクトメンバー内で情報を正しく把握し、共有するために、各地にあるランドマークや路線図を組み合わせた地図も作ってみました。

しかし結果的にはあまり役に立たなかったりと、最終版のデータを完成させるまで、情報の取捨選択が大変でした。

＃番町皿屋敷コース

全体地図の次は、二つ設定したお散歩コースをご紹介します。

まずは「番町皿屋敷コース」からです。

このコースについては、千代田区に在住、あるいは通勤・通学している方々にもご参加頂き、二〇二四年一月一六日土曜日に「千代田区怪談お散歩」ツアーを実施しました。そして、当日頂いたご意見や、学生スタッフの反省点を踏まえた上で、お散歩マップの内容をブラッシュアップしました。

このコースでは、江戸怪談の二大スターとも言われる、お菊さんやお岩さんが帯を垂らして走ったという坂「帯坂」を通ります！ お菊さんについては、井戸から出てきて、お皿を「一枚り、二枚り」と数える女性の幽霊として知っている方も多いのではないのでしょうか？ 一方のお岩さんは、四谷怪談にでてくる、悪い夫に裏切られたのちに怨霊と化した女性です。

お菊さんは知っていたけれどお岩さんはこのプロジェクトで初めて知った、という学生スタッフの声もありました。

このコースでは、怪談の現場を示すためのランドマークを見つけるのが大変でした。

江戸怪談の記録においては、多くの場合、その発生場所が「番町辺り」など漠然としたかたちで伝えられています。そのため、マッピングには苦労しました。

お散歩ツアーでは、東郷公園や靖国神社など、怪談をマッピングした場所にほど近いところを選んで、休憩も兼ねつつ、学生スタッフによる怪談の解説を行いました。

夏の終わりに秋頃にかけてのフィールドワークでは、歩いたたびに、靖国神社の売店でアイスを食べました。美味しいので、休憩する際にはオススメです。

今回マッピングはしていませんが、コースの近くには、素敵な雰囲気のカフェも幾つか見つけました。お散歩マップを片手にお散歩した際には、寄り道してみてもいかがでしょうか？

③ 学生C

番町には他にも、喋る飼い猫と言ったお話もあります。詳しい所在地は明記されていませんが、番町当たりのとお屋敷では、代々猫を飼うことをしませんでした。

というのも、昔、お屋敷で飼っていた猫が雀を仕留め損ねたときに子供のような声で「残念なり」と呟いたそうです。驚いたその家の主人は猫をとらえ「畜生の身でありながらものを言うとは怪しいことである」と言って殺そうとしました。すると再び猫は「ものを言うてなどいないのに」と喋ったため、また驚いた主人は猫をとらえた手を緩め、逃がしてしまいました。以降このお屋敷では猫を飼うことを固く戒めるようになったということです。

この話を掲載する際、現在の住所と照らし合わせることでできる情報が足りなかったため、地図のどの場所に入れるか、お散歩ルートにどのように組み込むかということに悩ましました。研究会ではその文献を読むことに加え、地図内、フィールドワークで行った徒歩と話しの割合を顧み、マップでは四番町と三番町の真ん中にマッピングし（地図を指さす）、お散歩本番ではその周辺地域と共に東郷公園で紹介しました。

このように、他にも現住所との照らし合わせが難しいお話がいくつかあったことが一番難しかった点だと思います。先ほどのお話でもあったように、怪談の起きた場所については「番町当たり」といった漠然とした記録が多かったためです。

今回はフィールドワークで歩くバランスを考えつつマッピングしました。このこともあり、実体験でしか得ることのできない学びを実感することができました。

④ 学生D

いま映っているのは、江戸城界限コースを紹介した見開きページです。平将門公の首が祀られているという「首塚」など、江戸城周辺の怪談が載っています。今回、江戸城界限コースのゴールとして設定した首塚は、東京メトロ大手町駅から徒歩三分のところにあります。平安時代の武将・平将門は朝廷に反旗を翻したことにより、京都で首を晒されることとなりました。その後、故郷へ向かって飛んでいった首は、途中で力尽きてしまいます。その際に落ちた場所の一つが、首塚のある大手町とされています。

フィールドワークの一環で、実際に現地に行ってみると、高層ビルの真ん中に石碑がポツンと建っており、不思議な感覚を覚えました。石碑の後ろにはカエルの置物が置いてありました。なぜカエルの置物があるのかについては諸説あるようです。一説には、生物の「カエル」と、故郷などに「帰る」という二つの言葉を掛け合わせた洒落で、願掛けのために置かれているとも言われます。また、この場所をたずねるといつも必ずお参りに来ている一般の方がいて、現在も信仰が厚いことを実感しました。このことも、実際に現地に行ってみて初めて知ることができ、あらためてフィールドワークの重要さを実感しました。

⑤ 学生A

神田明神や首塚は平将門を祀った場所として有名ですが、私は今回、築土神社もまた平将門を祀っている神社であることをはじめて知りました。フィールドワークで実際に築土神社へ行ってみると、ビルに囲まれた場所にあります。が、都会とは思えないほど静かな、緑のある空間で、とても心が安らぎました。また実際に行くことで、築土神社には、年代が明らかに becoming しているものの中では、千代田区内最古の狛犬がある、ということも知ることができました。

さて、江戸城界限コースのスタート地点である有楽町駅には江戸南町奉行所跡があります。南町奉行を勤めていた根岸鎮衛という人物は、「耳」に「袋」と書いて『耳袋』（みみぶくろ）と読む、当時の噂話などを書き溜めた随筆をまとめました。

実は今回のマップの怪談はこの『耳袋』からたくさん話を持ってきています。現在、有楽町駅前の南町奉行所跡にはちよっとしたモニュメント（？）があるのですが、あまり目立たず、知っている人も少ないのではないでしょうか。個人的には、『耳袋』を書いた根岸鎮衛ゆかりの奉行所跡なので、もう少し目立つような、素敵なモニュメントになっているといいなと思いました。

⑥ 学生E

表表紙と裏表紙は、「御江戸番町絵図」という千代田区番町界隈の古地図です。

その上に、私たち学生が描いたお菊さんや河童などのイラストを載せています。可愛くデフォルメしたイラストによって親しみの持てるマップにしてみました。ほかにも、色使いやフォント、ページのデザインなどについて試行錯誤を繰り返しつつ、見やすやと、親しみやすやを追求しました。ツアー参加者がより読みやすい資料にするにあたって、初めてパンフレットを製作したこともあり手こずる場面も多くなりましたが、雑誌記事のデザイン実習で得た学びや幾度にも渡る修正、メンバーとの話し合いによって完成させることが出来ました。

表表紙の「御用地」と書かれたところには現在、靖国神社が建っています。表表紙と裏表紙を横切る、真ん中の大きな通りが御厩谷坂（おんまやだにざか）です。この坂は番町皿屋敷コースで、靖国神社へ向かうルートにもなっています。お散歩ツアーで参加者に配布した仮のお散歩マップでは、表表紙と裏表紙に印刷した古地図が左右反対になってしまっていました。当日、ツアー参加者の指摘があるまで、我々は気づいていませんでした。そのため、そのご指摘はとても助かりました。

⑦ 学生F

今回、実際にフィールドワークをしてみて、道の広さや集団で集まれるスペースの確保など、安全性を考えたルールを作成するのが大変でした。また、参加者に実際に来ていただき、お散歩した時は声が聞こえやすいように、列の前方と後方で説明する人をそれぞれ配置し、屋外でも聞き取りやすいよう工夫しました。こうしてプロジェクトを進めていくうちに、なぜ江戸時代の千代田区には、怪談がこんなにも多くあったのかについても考えるようになりました。江戸時代、日本の中心だった江戸城の周りには武士が多く住み、さらにその生活を支える町人など多くの人が集まってきました。多種多様な人々が集まることで、奇妙な噂や怪談を含む多くの情報が行き交うようになったのでは

ないかという結論に至りました。

また怪談を含む古文文献を読んでいるとき、普段の授業で古文に触れている学生もいたものの、読みづらい文章がとて多くて、大変でした。プロジェクトの今井先生のお力を借りながら、なんとか読み進めることができました。

最後になりますが、いま、ご紹介してきたマップは、千代田区内外の皆さまのお力添えのもと、パンフレットとして完成させることができましたものです。

このマップは三月中旬以降から千代田区の各所で配布予定です。見つけたらぜひ手に取って、実際にお散歩してみてください。発表は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

発表後の質疑…

参加者による質問…今回は江戸怪談のマップングということだったが、近代から現代にかけての千代田区にまつわる

怪談や都市伝説のようなものはないのか？

学生による回答…近代以降では、たとえば共立女子大学にも「学校の怪談」がある。

教員による回答…もちろん、近代以降にもたくさんさんの怪談や奇妙な噂話が語られ、記録もされてきたが、今回は諸般

の事情から江戸怪談に絞ることにした。共立女子大学の怪談については、文献調査、聞き取り調査

などを続けており、今後、何かのかたちで発表したいと考えている。今回ご参加の大学関係者も、

勤務校にまつわる怪談があれば、ぜひご教示願いたい。

参加者による感想…マップが出来上がったら、ぜひ、利用させて欲しい。学生とともに街歩きに活用したい。また、

大学の垣根を越えて、こうした活動を通しての学生・教員の交流ができたらいと考える。

教員による回答…こちら、ぜひ継続的な交流をお願いしたい。互いに今後の展開に繋がるような意見を賜ったこと

に感謝申し上げる。

IV 活動報告

活動報告（例会議事録・現地踏査記録）

第一回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…四月十三日（土）十四時～十四時三〇分（説明会）↓一四時四〇分～一七時（第一回研究会）

本館四階、四〇一講義室

研究会参加者…学生七名、教員一名（今井）。

★説明会★

報告事項

・今後のおおまかなスケジュールについて。

春～夏 マップ作製 文献・フィールド調査↓マップデータの作製↓業者にデータを送って印刷、納品。

秋 イベント開催 安全に配慮した、お散歩イベントの実施。

冬 報告書の作成（マップに盛り込めなかった調査成果や、イベント実施結果・反省点などを踏まえて）

★研究会★

協議事項

一 研究会（？）の名前決めについて

・戸外での活動がボランティア保険の対象になるよう、この集まりの集団名を決める。

・来年以降も何かしらの活動が続ける可能性はあるが、その際には、本プロジェクトの正式名称が使えないおそれがある。そこで、正式名称とは異なる集団名を設定しておきたい。

例…怪談奇談調査団

・当日出た案。百鬼歩行の会、百奇歩行の会、怪談おさんぽマップの会、うわさ探究会（研究会）など。

当日出たキーワード…奇異さんぽ、散策、おばけ、奉行

・ 今後、簡単な会則を決めて、戸外での活動がボランティア保険の対象になるよう取り計らう。
↓ 会員、会則が定まり次第、フィールドワークの実施前に今井が千代田区に申請する。

二 各種ワーキング・チームを作った役割分担について

・ 文献調査班、地図選定班、データ作成班、フィールドワーク班、当日案内班など、
・ 今後、ワーキング・チームを設定しての役割分担が必要になってくる。
ただし、重複して所属することも多くなることが予想される。
・ 最初は全体で進めていき、次第に班分けするのが現実的か。

↓ 第二回研究会以降、文献班・地図班などをおおまかに決める方向性で進めていく。

※ 神社仏閣、歴史的建造物（橋、石垣など）、石仏・銅像、歴史的事件の発生地・伝承地などを調べる人も必要。

三 千代田区内の旧地名について

・ 千代田区内の現行地名は江戸期のものとは異なるので、江戸期の地名を把握して、効率的に調べを進めたい。

↓ 研究会後、今井のIDで国立国会図書館のデジタルデータベースにログインし、千代田区内の旧町名などを記した以下資料のPDFデータ（利用者登録が必要な資料）を閲覧した。

・ 東京都千代田区史編纂室編『千代田区町名変遷表』（千代田区史資料二輯）、千代田区、一九五八年。※（学生も国会図書館ページで簡単な登録を済ませれば、自分で閲覧・印刷可能）

↓ 大きな一覧表を複数ページに分けてデータ化しているため、若干読みにくい、それぞれの表の最上段が旧地名。

四 早めに着手すべき作業

・ 千代田区立図書館の郷土史コーナーを利用して調べを進める。（個人やグループで通う必要あり）

・『新編千代田区史』全5巻の内容を確認する。（今井が八王子キャンパスから取り寄せ中）

・各自、第二回までに様々な情報（文献情報、ネット情報、聞き取り情報、パンフなど）を集めていく。

千代田区の歴史については、千代田区立図書館の公式ページにレファレンス情報がまとめられている。
千代田区の歴史について調べる（千代田区立図書館）

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/uploads/96cc0955ed04eab90d0b4d4e7e190b3c10dcd733.pdf>
続きは第2回研究会の参加者を交えて、引き続き考えていくこととなった。

第二回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…四月二十七日（土） 一四時～十四時三〇分～一七時（説明会）

↓一四時四五分～一七時一〇分（第一回研究会）

本館四階、四〇一講義室

研究会参加者…学生八名、教員一名。

★説明会★

報告事項

・前回検討した、正式名称以外のグループ名はとりあえず継続審議とし、ペンディングに。

・今後のおおまかなスケジュールについて

春～夏 マップ作製 文献・フィールド調査↓マップデータの作製↓業者にデータを送って印刷、納品。

秋 イベント開催 安全に配慮した、お散歩イベントの実施。

冬 報告書の作成（マップに盛り込めなかった調査成果や、イベント実施結果・反省点などを踏まえて）

★研究会★

今日までに調べてきたこと。これから進めるべきこと。

・千代田区の地図調査（古地図、現代マップ） ※取りまとめ役、一名。

・いま仮に、地下鉄の駅名をマッピングした分かりやすい地図の案を作っている。
より分かりやすくするための意見が欲しい。今後、白地図を探す。
・図書館の郷土コーナーには禁貸出資料が多かったため、借りだせるものをコピーしてきた。（配布資料）
現代地図に古地図の情報をマッピングし、一本化したものである。

↓今後、権利関係に問題がなく、無料で利用できる地図（現代・古地図）を探してリストアップする。
国立公文書館など。

（研究会後、今井が国立公文書館のサイトを見てみたが、江戸初期の地図が多く、今回のニーズとは合わなかった）

・学生：「国土地理院古地図コレクション」が便利。

<https://kochizu.gsi.go.jp/item-categories/12>

→これらの中から、使えそうなものを拾い出す。あるいは、別のデータベースを探してみる。

・文献調査 ※とりまとめ役、学生一名。

◎今井担当：『耳袋』、皿屋敷関連（番町、皿明神、帯坂）、江戸城大奥の怪談、神田の天狗（『諸国里人談』）、四谷怪談の歌舞伎を神田で上演し、事故が起きた話（『藤岡屋日記』）、など。

↓皿屋敷については情報を共有した上で、学生一名も調べを進めてみることに。

◎共立女子大学の怪談：共立関係者との折衝は今井が担当。これについては急がない。

◎怪談奇談：学生一名が調べを進めることに。もちろん、ほかのメンバーも可能な範囲で調べる。

◎歴史・史跡：泉鏡花、曲亭馬琴の屋敷跡など。また、事件・事故・災害も。文豪関連については一名が担当。

◎神社仏閣、橋・石垣：怪談奇談、霊験譚ほかの情報を集めてみる。

・ 調べ方

千代田区のウェブサイト、パスファインダーを活用。

千代田区立図書館の司書、コンシェルジュを活用する。

先行する千代田区内のイベント、パンフレット、展示などを参考にさせてもらう（歴史・文学探訪系など）。

・ 平成十七年度、明治大学の提案事業に「神田地域の歴史地図データベース構築」あり。

<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/volunteer/tean-ichiran.html>

・ 急がないが、いずれやるべき To Do リスト

◎ ツアーのコースなどについては、追って検討。先行するイベント、パンフなどを参考にしてみる。

◎ DTP 担当者について。早いうちに担当者を決められれば安心。候補は二名。

・ 今後のスケジュール

◎ イベントの日程について（仮）

二〇二四年一〇月一九日（土）か二〇日（日）だと、共立祭と神保町古本祭と日程が重ならない可能性が高い。

これを期限として逆算すると・・・

→ 印刷物の納品、一〇月一二日（土）頃。

→ DTP データの印刷所提出、一〇月第一週、五日（土）頃。

→ DTP データ作成、九月まるごと必要。

◎ 文献、フィールド両方の調査も並行して進めていく。

↓ 今後、次回研究会で共有すべき情報・資料は前日までに今井に送信すること。

第三回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…五月一日（土）十四時～十六時

本館四階、四〇一講義室

参加者…学生三名、教員一名。

本日の作業

- ・紙媒体に手作業で、『耳袋』にある怪談奇談（計五話）の舞台を地図に落とし込み。
- ・皿屋敷関連の伝承地を地図に落とし込み。

新たに出た案

- ・暑くなることが予想されるので、地図をうちわにプリントするのはどうか？
- ・うちわの相場は、一枚七円。
- ・うちわは和紙のものにして、透かすと今の地図と昔の地図が重なって見えるようにする。
- ・和紙のうちわは高くなるが、特別感あり。

来週までにやること

- ・今調べている話の舞台を地図に落とし込む。

研究会後の教員コメント…団扇のアイデアはとても良い。しかし残念ながら、あくまで今回の千代田学に伴う予算は「パンフレット作製」であるため、転用はできない。今回のプロジェクトとは別に、将来的に、団扇に簡易版のお散歩マップおよびマップの完成版データにアクセス可能なQRコードを印刷する、などの展開は充分に考えられる。怪談といえ夏、というイメージにも合う。今後も学生主導で柔軟なアイデアをたくさん出して欲しい。

次回研究会の開催は五月一八日（土）を予定。

第四回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…五月一八日（土）十四時～十六時

本館四階、四〇一講義室

参加者…学生七名、教員一名。

★前回研究会の内容報告

手書きでの『耳袋』マッピング作業。団扇を作るという案。本会のイメージキャラクターを描きたいという要望。

★今日の作業 マッピングの続きと情報共有。

- ・将門首塚関連の情報を収集すべし。
 - ・馬琴旧居跡。馬琴は怪異性を帯びた戯作を書くだけでなく、怪談奇談を集める兎園会という集まりに入っていた。
- その様子の一部は『兎園小説』に収められている（日本随筆大成に収録）。

◇それぞれが持ち寄った、下作業用の書き込み地図や、関連書籍などの内容を共有。

◇今後の計画

第二回で想定した全体スケジュールの再確認。

以下、第二回議事録の引用

◎イベントの日程について（仮）

二〇二四年一〇月一九日（土）か二〇日（日）だと、共立祭と神保町古本祭と日程が重ならない可能性が高い。

これを期限として逆算すると・・・

→印刷物の納品、一〇月一二日（土）頃。

→DTPデータの印刷所提出、一〇月第一週、五日（土）頃。

→DTPデータ作成、九月まるごと必要。

◎文献、フィールド両方の調査も並行して進めていく。

・上記を踏まえ、六〇八月のスケジュールを具体化していく必要あり。

八月　・七月までに終わらなかった作業を進める。

・共立の教員経験者に、共立の怪談を伺う。

・千代田区に関東大震災絡みの怪談があるか調査。

↓深入りせず、震災絡みの怪談があるかどうかに特化して調べるとよい。

七月　・フィールド調査。ルートを確定していく（番町ルート、首塚ルート、お岩の芝居小屋ルートなど）。

・地図のデータ作りを始める。

六月

地図班　・現代地図、古地図で、権利関係をクリアして使えるものを探す。

・上記とあわせて、地図（仮）のブラッシュアップ。

文献班　・首塚、皿屋敷、四谷怪談、各担当者を中心に調査を進める。

※次回（六月一五日）までにある程度の成果をまとめる。

※他の人も手が空いていれば担当者のサポート。また、幅広く文献を調査。

全体　・余裕があれば神社・仏閣の調査を進める。

・各担当者のサポートをし、情報を共有する。

◇今後の予定

六月一五日・二九日、七月一三日・二七日に研究会を予定。

（予定よりも話し合いの進捗が遅れた場合、七月後半に集まって再度話し合う）

◇次回（六月一五日）会議内容

- ・文献調査内容の共有。
- ・ルートの準中心になるスポット決め。

◇今後に向けての準備

- ・ボランティア保険の申込書入手する（今井）。
- ・表紙・裏表紙を含め全八頁の紙面の構成について、アイデア出しを進める。
- ・リーフレットを集めていく。とくに千代田区関連のマップが載っているもの。

第五回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…六月一五日（土）一四時～一六時

本館四階、四〇一講義室

参加者…学生四名、教員一名。

報告事項

- ・四谷怪談（『藤岡屋日記』）コピー入手済。
- ・古典（『太平記』など）、先行研究における将門情報（村上春樹『平将門伝説』、一般書における将門イメージ（加門七海『平将門魔方阵』など）の収集を続ける。

- ・皿屋敷について情報収集中。学生間で今後も継続して情報共有を続ける。

今後の計画

- ・使える古地図などのデータを探す。（江戸マップのベータ版など）
- ・マッピング、ルート設定。『耳袋』喋る猫、帯坂（お岩、お菊）、一口坂（いもあらいざか。疱瘡除け）、靖国神社
- ・イベントの際のルート（靖国通り沿い？）上にある施設探し。（トイレ、カフェなど）

※今井が追加で見つけた、上記ルートに加えられるようなもの。

- ・麹町一丁目のお堀端に出た河童（『怪談老の杖』）

↓次回、現代地図のレイアウトについて相談。

第六回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…六月二十九日（土）一四時～一七時

本館四階、四〇一講義室

参加者…学生六名、教員一名。

協議事項…

パンフレットのレイアウト

一案…表表紙・裏表紙を見開きで繋げる古地図。

千代田区全体の現代地図に怪談をマッピング。

コースごとの拡大現代地図。

ルート設定

・「番町皿屋敷コース」(仮)

千代田区役所↓ 築土神社、靖国通り、お菊神社、番町、帯坂、↓市ヶ谷駅
※イベントでの散策ルートとする。

・「江戸城界限コース」(仮)

江戸城↓お堀↓首塚↓有楽町(『耳袋』ゆかりの南町奉行所跡)

・「平将門首塚コース」(仮)

首塚↓神田明神↓築土神社

・「幽霊コース」(仮)

昌平橋の小僧幽霊、神田明神、四谷怪談上演の怪、老女の霊、下女の恨み、女崇りの部屋、根岸鎮衛屋敷跡、梅の精(『耳袋』)
※どう歩くかのルートは未設定

今後の計画..

・番町皿屋敷コース(仮)の現地踏査。

↓次回、パンフレットのレイアウトについて相談。

↓随時、進めるべきこと。怪談のリストアップ化(タイトル、内容、出典)

※学生一名、エクセル作成中。

第七回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…七月一日（土）一四時～一七時

本館四階、四〇一講義室

出席者…学生六名、教員一名。

協議事項…

○皿屋敷コース（靖国通り沿い）について決めるべきこと。

・道順

・立ち寄って話をするポイント

○フィールドワークで確認するべきこと

・歩きやすさ（段差、日陰）

・トイレの場所（綺麗さ、個数）

・何分くらいのコースにするか、所用時間

・自販機、コンビニの場所

○本日の作業

・マッピング作業（トイレ、コンビニ）

・皿屋敷コースのルート決め（仮）

パンフレットのレイアウト

一案…表表紙・裏表紙を見開きで繋げる古地図。

千代田区全体の現代地図に怪談をマッピング。

コースごとの拡大現代地図。

ルート設定

・「番町皿屋敷コース」(仮)

千代田区役所↓ 築土神社、靖国通り、お菊神社、番町、帯坂、↓市ヶ谷駅
※イベントでの散策ルート

・「江戸城界限コース」(仮)

江戸城↓お堀↓首塚↓有楽町(『耳袋』ゆかりの南町奉行所跡)

・「平将門首塚コース」(仮)

首塚↓神田明神↓築土神社

・「幽霊コース」(仮)

昌平橋の小僧幽霊、神田明神、四谷怪談上演の怪、老女の霊、下女の恨み、女崇りの部屋、根岸鎮衛屋敷跡、梅の精(耳袋)

※どう歩くかのルートは未設定

今後の計画..

・番町皿屋敷コース(仮)の現地踏査。

↓次回、パンフレットのレイアウトについて相談。

↓随時、進めるべきこと。怪談のリストアップ化(タイトル、内容、出典)

※ 学生一名、エクセル作成中。

第八回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…七月二十七日（土）一四時～一七時

本館四階、四〇一講義室

↓一七時～一八時三〇分 皿屋敷ルート（仮）の現地踏査。

出席者…学生四名、教員一名。

協議事項…

○皿屋敷コース（靖国通り沿い）について決めるべきこと↓妖怪話と幽霊話のバランス

立ち寄って話をする場所の候補

江戸城お堀（お堀関連の奇談を解説）

・寛政年間（一八世紀の末）に江戸城の近く、一番町のお堀端にあらわれたカッパ。（『蜷川家文書』国立公文書館）

・土中の鯉（『耳袋』）

九段下 築土神社 将門。

・以下、靖国神社で解説。

靖国神社で解説すべき話

・四谷怪談（お岩が現・靖国神社あたりの三番町から四谷方面に走り去る場面）

・『耳袋』猫の怪異の事（武士の飼った猫が子どもたちの声で喋る話）

・訪問客を驚かす化物屋敷（正体は狸）『江戸の口碑と伝説』

・帯坂 皿屋敷のお菊、四谷怪談のお岩。

七月二十七日（土） 現地踏査…一七時～一八時三〇分（第八回研究会後）

実際に皿屋敷コース（仮）を歩き、説明ポイントや問題点を確認した。

確認したポイント

・千代田区役所前、清水門（しみずもん）前の濠端

：江戸城のお濠にまつわる怪談奇談を解説。

・千代田区観光案内所

・築土神社

・番町（靖国神社）

・帯坂

要検討事項…靖国神社から帯坂までの間にポイントがなく、「ダレ」てしまう。

↓変更案 靖国神社を出たあと靖国通りから逸れて、帯坂の上に至るルートを考える。

第九回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…八月二日（金）一〇時～一三時。

一一一五 今井研究室。

出席者…学生三名、教員一名。

協議事項…

○要検討事項…靖国神社から帯坂までの間にポイントがなく、「ダレ」てしまう。

↓変更案 靖国神社を出たあと靖国通りから逸れて、帯坂の上に至るルートを考える。

（注…前回の踏査コースとは逆に、市ヶ谷駅をスタートして共立三号館に至る案もある）

○お散歩マップ制作時の怪談キャプションフォーマット

タイトル・場所・内容（仮に二〇〇字で作る）・出典・参考資料（翻刻、研究など）

※ 各自、現在エクセルで共有されているデータに補足していくかたちになるか。

（今井の担当分についても次回研究会までに進めておきます）

例）タイトル…帯坂

場所…JR市ヶ谷駅前。九段南四―八

内容（二〇〇字程度？）…皿屋敷のお菊が髪を振り乱して帯を引きずりながら通ったと伝えられる。別の伝承では四谷怪談のお岩だともいう。皿屋敷のお菊さんの最期は、殺されて井戸に投げ込まれるというもので、走る描写はない。一方で四谷怪談のお岩さんは、厄介払いとして番町の武家屋敷に奉公に出されていたところ、夫・伊右衛門が別の女と暮らしていることを知り、狂乱状態になって番町から四谷方面に走り去る。帯坂の伝承は、そもそもお岩さんにまつわるものとして伝えられていたようにも思われる。

出典…在地伝承を記した現地の看板など。

参考資料（翻刻、研究など）…横関英一『江戸の坂、東京の坂（全）』筑摩学芸文庫、二〇一〇年。

備考…近代に入ってから作られた伝承か。

○イベントについて

散策イベントは、一〇月一九日（土）での実施を予定（共立祭の翌週）。

共立の連携推進課に確認したところ、他のイベントとのバッティングなどの問題はとくになさそう、とのこと。現状、教室の予約などは想定していないが、必要になりそうな場合は、早めに用途などを今井まで伝えること。

【今井追記】

○皿屋敷コース（仮）の新規ルート案について

・八月二日（金）の研究会後、一八時三〇分頃から一人で皿屋敷コース（仮）の新規ルートを開拓してみた。
具体的には、靖国神社を出たあと、靖国通りを左折して御厩谷坂（おんまやだにざか）に入り、次の信号を右折して、靖国通りと並行する「二七通り」（にしちどおり）を歩いてみた。

・二七通りには、現在はビル状の建物になっている「二七山不動院」という真言宗の寺院がある。

この寺は、日露戦争においてバルチック艦隊を撃沈した東郷平八郎元帥の信仰が厚いことでも知られる。

・二七山不動院を過ぎると三分ほどで、東郷邸跡地に作られた「東郷元帥記念公園」に至る。

（現在、公園は工事中であり、東郷関連の遺物（ライオン像）なども見られないが、利用できる広場もある）

・公園を出て再び二七通りを進めば三分ほどで、前回、現地踏査した「帯坂」の坂上に至る。（坂を下ってすぐ目の前がJR市ヶ谷駅）

↓以前のプランでは、靖国神社を出たあと、そのまま靖国通りを歩く「ダレる」コースであったが、二七通りを通ることにより、それが回避できるかと思われる。

ただし、靖国通りよりは細い通りになるので、当日の安全確保がより重要となる。

↓イベント実施時には、JR市ヶ谷駅に集合してスタートするのが無難か。

解説ポイントは以下の通り。

JR市ヶ谷駅（スタート）、帯坂、東郷公園、二七山不動院（※さっと通り過ぎる）、靖国神社、築土神社、清水門（江戸城お濠）、共立女子大学三号館（ゴール）。

現状では上記のように考えていますが、意見があればどんどん学生同士で検討したり、今井宛に投げたりして下さい。イベント実施日もほぼ決まってきましたので、限りある時間を有効に使って、学生主体の本プロジェクトを成功させたいと思っています。引き続き、どうぞよろしく願います。

第一〇回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…八月一九日（月）十一時～十四時一〇分

本館四階、四〇一講義室

出席者…学生五名、教員一名。

【報告事項】

- ・怪談ポイントおよびコンビニ、トイレをピン留めしたGoogleマップ。
- ・江戸城界限コース
- ・番町皿屋敷コース

・『耳袋』収録話の要約をまとめたエクセルについて
↓データを共有したので、これから今井があらすじの内容をチェックする。

【協議事項】

☆パンフレット（怪談マップ）のレイアウト決め
以下の案をベースに進めていくことになった。

○現代地図 ↓要・権利関係のクリアされた地図データ入手。

千代田区全体の地図 怪談ごとに番号を振ってマッピング。
お散歩コースの地図
・ほぼ確定しているのは皿屋敷コース。

・それ以外に、最低もうひとつはコース設定が必要か。
末尾に、それぞれの怪談情報（タイトル、要約、出典など）

○古地図 表表紙・裏表紙の見開きデザインに使うか。↓要・権利関係のクリアされた地図データ入手。
デザイン優先で進める。

☆皿屋敷以外のコース設定について

江戸城コース（仮）

有楽町駅（スタート）↓南町奉行所↓桜田門（梅鉢の鯉）↓大奥の怪談↓野衾（大手門）↓首塚↓東京駅（ゴール）

次回、実地踏査の予定。

情報共有

・吉川弘文館『日本随筆大成』の本文PDFには、共立図書館サイトからアクセス可能であることが分かった。
（学生一名が『梅翁随筆』に含まれる必要箇所の情報を共有することに）

※ただし、共立関係者の同接可能件数は一件のみなので、使用後は必ずログアウトすること！

・今日の話題として出た「番町七不思議」について調べてみたところ、

どうやら、ある程度まとまった古い例としては明治二〇年『やまと新聞』連載「番町七不思議」がある模様。

（湯本豪一編『明治期怪異妖怪記事資料集成』）

今回は無理に組み込まなくてもよいかと。

↓江戸城大奥の怪異については、研究室にある『定本 江戸城大奥』を使用。

第一回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…九月二日（火）一四時～一七時

本館四階、四〇一講義室

出席者…学生六名、教員一名

【確認事項】

第二回で想定した全体スケジュールの再確認。

イベント日程…二〇二四年一〇月一九日（土）を期限として逆算すると・・・

→印刷物の納品、一〇月一二日（土）頃。

→DTPデータの印刷所提出、一〇月第一週、五日（土）頃。

→DTPデータ作成、九月まるごと必要。

◎文献、フィールド両方の調査も並行して進めていく。

【報告事項】

進捗報告 今井…

☆研究会で閲覧のムック本に載っていた『耳袋』以外の怪談の出典探し。

・お岩が麴町屋敷を出て走り去る話（帯坂の由来） ↓ 『模文画今怪談』など

・番町の狸屋敷 ↓ 浅野正次『江戸の口碑と伝説』 ↓ 『模文画今怪談』など

※今井が該当部分の翻刻（近藤瑞木『百鬼繚乱』所収）をスキャンして共有することに。

【協議事項】

to do リスト ※とくに担当者の記載がないものは皆で決める。

・イベントの引率人数、参加人数、開催回数（例…午前一回、午後一回）の設定。

- ・申し込みフォームの作成。
- ・チラシの作成。配布先…共立女子大学、千代田区役所など。
(場合によっては今井が作成してもよい。データ班と要調整)
- ・パンフレットのデータ作成。(学生二名を中心に)
- ・パンフレットデータを印刷所へ納入↓納品された印刷物の受け取り、予算からの支払(今井担当)

【九月二日 研究会当日の作業】 会議後、二班に別れて作業を行った。

- ・マップデータ作製班

学生二名…お散歩マップの下書きデータ作成を開始。

- ・散策班

学生二名、今井…江戸城コースの散策。将門塚(首塚など)。情報収集、写真撮影。

【今後の作業】

複数の班に分かれて、作業を進める。

- ・マップデータ作製班

引き続き、お散歩マップの下書きデータ作成を進める。

- ・散策班

イベントで実際に案内を行う皿屋敷コースの再確認。

第一二回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…九月二一日(土) 一四時～一七時

本館四階、四〇一講義室

出席者…学生五名、教員一名

【確認事項】

全体スケジュールの再確認。

・二〇二四年一〇月一九日（土）にイベントを実施するとすると、本番を想定してのリハーサルを充分に行えない可能性がある。

↓代替案 イベント日程…二〇二四年十一月一六日（土）に変更してはどうか。

当日、授業もあるので、たとえば 一三時三〇分、市ヶ谷駅スタートにするか。

※一〇月一九日（土）には仮マップを手にしリハーサルを行う案が出た。

それまでに仮マップのデータを作って今井研究室で印刷する必要がある。

イベントは、十一月以降に複数回開いてみてもよいかもしれない。例…他の研究会と共催など。

【報告事項】

今井…

・番町が登場する四谷怪談の一部および化物屋敷の話が載る『模文画今怪談』翻刻情報を共有（近藤瑞木『百鬼繚乱』所収）。

・室井康成『首塚・胴塚・千人塚』に、大手町の将門首塚に関する記述あり。

【協議事項】

・イベント本番を延期するにしても、早めにマップのデータ作りやイベント下見を進める必要がある。

・現在、作成を進めているマップのデータ作りに関しての権利関係について。

↓ 国土地理院の現代地図は、出典を明記すれば申請なしで使えるとのこと。

↓ 番町界隈の古地図を表紙・裏表紙に使う予定だが、これに関しては申請用紙・フォームを用いたネット申請が必要。（学生一名が作業を進め、申請にあたっては今井が行うことに）

【今後の作業】

複数の班に分かれて、協力しつつ作業を進める。

・ マップデータ作製班（統合作業のほか、もとなる文字データ作成、イラスト作成など。写真をどうするか・・・）

・ 散策班

イベントで実際に案内を行う皿屋敷コースの再確認。

市ヶ谷駅スタートで、一〇月一九日リハーサルの前にいちど、決定版の全行程を歩いておく必要あり。

（マップ作業とともに、決定版のコースを定めなければならない！）

第一三回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…九月二十八日（土）一四時～一七時

本館五階、五二一講義室

出席者…学生六名、教員一名。

【確認事項】

・ 国土地理院の古地図データ申請が許諾され、高解像度のデータが利用可能となった。

【協議事項】

・ ツアーガイド担当者は、一〇月一九日、十一月一六日両方の参加必須。

- ・地図作成（現代）※三名でトリミングを行う。
- 千代田区全体マップ、皿屋敷コース、江戸城コースそれぞれをトリミング。
- ・表紙デザイン・イラストについて
- ・裏表紙に挿入する、怪談情報リスト（現代地図班）・プロジェクト解説（今井）・奥付（今井）・古地図出典（古地図班）
- ・要約文章の確認、加筆修正…今井
- ・地図作成…古地図担当、一名。
- ・ポスター制作…イラスト担当、一名。※ポスター主導、二名。
- ・スケジュール確認
 - 一〇月一六日（水）マップ仮データ提出期限 ↓リハールサル参加者分を研究室で印刷、製本。
 - 一〇月一九日（土）リハールサル
 - 一〇月二八日（月）募集フォーム作成、QRコード作成期限
 - 一〇月三一日（木）ポスター掲示（QRコードを入れる） ↓掲示場所…学内、区役所など
 - 一〇月三一日（木）データ班↓今井にデータ送信
 - 十一月一日（金）今井が業者にマップデータ入稿 参加者にデータ共有
 - 十一月八日（金）マップ納品
 - 十一月九日（土）納品されたマップの確認
 - 十一月一六日（土）イベント本番
- ・調整さんの設定…今井 ……一〇月一九日（土）リハールサル、十一月一六日（土）イベント本番、など
- ・イベント本番のスケジュール 集合 一三時二五分、JR市ヶ谷駅改札口 開始 一三時三〇分

※メインのルート管理、解説担当、タイムキーパーを設定する必要がある。↓イベント班で決めておく

・イベント本番が雨天であった際の対応。

↓ひとまず雨天中止とする。 別途、仕切り直しの場合、時期について考える。

※ツアーガイド担当者（学生三名）はとくに、一〇月一九日リハール以前に地図上のルートを確認しておくこと。

以下、第九回議事録内容の再確認

――

○皿屋敷コース（仮）の新規ルート案について

・今井・八月二日（金）の研究会後、一八時半頃から一人で皿屋敷コース（仮）の新規ルートを開拓してみた。

具体的には、靖国神社を出たあと、靖国通りを左折して御厩谷坂（おんまやだにざか）に入り、次の信号を右折して、靖国通りと並行する「二七通り」（にしちどおり）を歩いてみた。

・二七通りには、現在はビル状の建物になっている「二七山不動院」という真言宗の寺院がある。

この寺は、日露戦争においてバルチック艦隊を撃沈した東郷平八郎元帥の信仰が厚いことでも知られる。

・二七山不動院を過ぎると三分ほどで、東郷邸跡地に作られた「東郷元帥記念公園」に至る。

（現在、公園は工事中であり、東郷関連の遺物（ライオン像）なども見られないが、利用できる広場もある）

・公園を出て再び二七通りを進めば三分ほどで、前回、現地踏査した「帯坂」の坂上に至る。（坂を下ってすぐ目の前がJR市ヶ谷駅）

↓以前のプランでは、靖国神社を出たあと、そのまま靖国通りを歩く「ダレる」コースであったが、二七通りを通ることにより、それが回避できるかと思われる。

ただし、靖国通りよりは細い通りになるので、当日の安全確保がより重要となる。

↓イベント実施時には、JR市ヶ谷駅に集合してスタートするのが無難か。

解説ポイントは以下の通り。

J R市ヶ谷駅（スタート）、帯坂、東郷公園、二七山不動院（※さつと通り過ぎる）、靖国神社、築土神社、清水門（江戸城お濠）、共立三号館（ゴール）。

第一四回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…一〇月一九日（土）一四時～、本館四階、四〇一講義室 ↓現地踏査

内容…お散歩イベントのリハーサル（市ヶ谷駅↓靖国通り↓共立女子大学三号館）

☆九月二十八日 議事録の再掲

・スケジュール確認

一〇月一六日（水）マップ仮データ提出期限 ↓リハーサル参加者分を研究室で印刷、製本。

一〇月一九日（土）リハーサル

一〇月二八日（月）募集フォーム作成、QRコード作成 期限

一〇月三一日（木）ポスター掲示（QRコードを入れる） ↓掲示場所…学内、区役所など

一〇月三一日（木）データ班↓今井にデータ送信

十一月一日（金）今井が業者にマップデータ入稿 参加者にデータ共有

十一月八日（金）マップ納品

十一月九日（土）納品されたマップの確認

十一月一六日（土）イベント本番

☆一〇月一九日に確認した今後の作業…

フィールド班、マップ班共通で抑えるべき点

- ・皿屋敷コースは築土神社解散に変更。

※一〇月一九日実地調査での所要時間を勘案し、コースを若干、短くすることになった。

【フィールド班】（ガイド担当の三名を中心に調整）

- ・集合・解散時に話す内容（二〜三分程度）を考えておく。
- ・各ポイントで話す内容を煮詰める。
- ・移動中に適宜、解説する内容を用意し、共有しておく。

【マップ班】

- ・表表紙の下部に古地図の出典を明記する。

※国土地理院所蔵「御江戸番町絵図 全」を加工して作成。

- ・各コースの文章では、カッコ内で示した出典を明記すること。※この文章の末尾に最新版の文章をベタ貼りします。
- ・表表紙に古地図の出典を明記。
- ・全体地図、怪談キャプションを左側に配置するかたちに変更。
- ↓裏表紙の怪談キャプションを削除。
- ・皿屋敷コースに引いたルート線を築土神社で止める。担当…一名。

【チラシ班】一〇月末〆切 チラシデザイン担当：一名、google forms 担当：一名。

募集人数…一二名

エントリー方法：google forms 氏名・連絡先（メールアドレス）を明記。

事前抽選の上、当落をメール連絡。（今井アドレス）

小雨決行。天候などの理由により中止の際は当日の正午までにメール連絡。

↓フォームをQRコード化してチラシに掲載。

フイールド班、リハーサル記録

一〇月一九日（土）

出席者…学生五名、教員一名。

一三時二五分 集合

一三時三〇分 出発

一三時三八分 帯坂 ※解説…お菊さん・お岩さんについて

一三時四五分 東郷公園 ※解説…東郷公園の説明を一言。蛙・狸。各怪談をここで話す理由も一言。

一四時〇八分 靖国神社 ※解説…猫、お岩さんの奉公先が今の靖国近辺だったこと。

（休憩） 本番では一〇分程度の休憩とし、水分補給・トイレなどを済ませてもらう。

一四時四四分 靖国神社出発

一四時五二分 築土神社

一五時〇〇分 出発。

↓所要時間の長さに鑑み、築土神社での解散に変更した。

マップ、各コースの文案（最新版）

☆皿屋敷コース☆

・帯坂（皿屋敷、四谷怪談）

【番町 千代田区九段南四丁目く五番町（市ヶ谷駅前）】

怪談「番町皿屋敷」のお菊さんが髪を振り乱して帯を引きずりながら通ったと伝えられるが、別の伝承では四谷怪談のお岩さんだともいう（綿谷雪『江戸ルポルタージュ』、横関英一『江戸の坂、東京の坂（全）』）。

番町皿屋敷のお菊さんは、奉公先の武家屋敷で家宝の十枚揃いの皿を一枚割ってしまい、主人と奥方に折檻された

あぐく井戸に落ちて死に、主家に祟る怨霊となった『皿屋敷弁疑録』。この皿屋敷の物語には、お菊さんが走るという描写はない。一方、「四谷怪談」のお岩さんは、何も知らずに悪い夫の伊右衛門から厄介払いとして番町の武家屋敷（現・靖国神社あたりの三番町）に奉公に出されていたところ、ある日、夫が別の女と暮らしていることを知り、狂乱状態になって番町から四谷方面に走り去ったという（『模文画今怪談』）。お岩さんものに怨霊となり、自らに仇を為した夫たちに祟ることとなる。帯坂の伝承は、そもそもはお岩さんにまつわるものとして伝えられていたようにも思われるが、いずれにせよ江戸怪談を代表する二人の女幽霊にちなんだ伝承を持つ名所である。

・番町の化物屋敷

【番町 千代田区西部】

番町には化物屋敷が幾つもあったという。ある町医者が、番町辺りの屋敷に呼ばれて奥方の診察に赴いたときのこと。座敷に通されて待っていると、十二、三才ほどの小僧がお茶を運んできた。話しかけると恥ずかしがって隣の間子を訊くと、それはもしやこんな顔ではありませんでしたかと言うやいなや、さきほどよりも大きな顔の一つ目の化物になった。たまらず町医者が逃げ出すと、玄關にいた草履取りもまた、大頭の化物に姿を変えた。町医者はついに気を失ってしまい、その後、家の者が迎えに来て、しばらくは口がきけぬ有り様だった。後で聞けば、ここは化物屋敷として知られており、化物の正体は古狸だということだった（『怪談登志男』）。また、六番町三年坂（現・五番町）にも化物屋敷があり、夜になると行燈に照らされた女の顔が長くなったり短くなったり、きわめて恐ろしい顔になったりすることがあったという（『梅翁随筆』）。

・猫の怪異

【番町 千代田区西部】

番町あたりのとある武家では、代々、猫を飼うことをしなかった。その理由は以下のようだという。昔、この武家では一匹の猫を飼っていた。ある時、縁側の端に雀が二、三羽いた。かの猫は雀に狙い飛び掛かるが、雀は素早く飛

び去ってしまった。これを見た猫は子どものような声で「残念なり」と言った。驚いた主人は猫に飛びかかって火箸でとり押さえると、「畜生の身でありながら物を言うとは怪しいことである」と言って殺そうとした。すると再び「物を言っただけだ、いいのに」と喋ったため、主人は驚いて手を緩めてしまった。その隙に猫は逃げ、行方知れずとなった。以降、この屋敷では猫を飼うことを固く戒めるようになったというのである（『耳袋』）。

江戸期の日本には猫の怪異にまつわる話がたくさんあり、江戸城を中心とした江戸においても、化け猫などが出没したという話が少なくなかった。ちなみに、さきほど引用した『耳袋』にはもうひとつ、猫が「残念なり」と喋ったという話が載せられている。同書は江戸南町奉行であつた根岸肥前守鎮衛による随筆であり、現在の千代田区界隈を舞台とする怪談も数多く記録されている。なお江戸南町奉行所は現在の有楽町駅あたりに存在していた。

☆江戸城コース☆

・江戸城の堀に棲む河童

【江戸城界隈 皇居周辺】

江戸城の堀に棲んでいた河童の話は幾つもある。たとえば寛政年間、一番町の堀端に出現した河童は一九〇センチ近い大きさだったといい、別の時に武士の足にまとわりついて殺されそうになった河童は一命をとりとめた後日、同じ武士に何度もお辞儀をしたという（『蜷川家文書』）。また、武士の従者が桜田門から半蔵門にかけての「弁慶堀」（現・桜田堀）を通りかかると、堀の中から小さな子供が手招きしていた。子どもがおぼれていると思い、助けようとする、堀に引き込まれそうになった。あわてて振りほどいたが、体からは悪臭がなかなか抜けず、しばらくは体調も優れなかった（『甲子夜話』）。麴町一丁目の堀端では、雨具を持たずに濡れながら歩く子どもを不憫に思った浪人が傘を貸そうとしたところ、突然、腰を掴んで堀に引きずり込もうとした。浪人は命からがら逃げだしたが、その後も河童を恐れて、決して堀端には近づかなかったという（『怪談老の杖』）。

・大奥の怪談

【江戸城 皇居周辺】

大奥に仕えるあらしという女中が、ある日の朝に姿を消した。一向に帰ってこず相部屋の者が探しに出たが、夜になっても影すら見えない。行方不明から三日後の深夜、天守台を見張っていた者達の上から、しわがれ声で「あらしはここにここに」と聞こえると、その死骸が逆さまに落ちてきた。夜の天守台に登れる者などおらず、あらしは常々天守へ上ってみたいと話していたために魔物に魅入られたのか、はたまた天狗にいたずらされたのか死骸は掻きむしったような血だらけの姿であった（『文政奇談夢物語』三田村鳶魚『御殿女中』所収）。

江戸城の敷地内には狐狸の類が多く、たびたび女中を化かしていた。夜半に女中の真似をして「オタン」（「お頼み申します」の意）と声をかけたり、白装束を着て青ざめた顔色の女中に化けたりしては人々を脅かしていたという。一方で恐いもの見たさから、女中たちが百物語怪談会を開くこともあった。あるとき、女中の一人が部屋に戻ると「オタン」と声がかかり、恐れ多くも田安家の紋が入った風呂敷に薩摩芋を包んだものが投げ込まれた。気味が悪くなり、その後、百物語を行う者はいなかったという（『定本 江戸城大奥』）。

・将門塚（首塚）

【大手町 1・2・1】

神田明神創建の地である将門塚は別名「首塚」とも呼ばれ、平将門の首が埋められていると伝えられる。平安時代の武将であった平将門は京都の朝廷に反旗を翻したが、故郷の下総国猿島（現・茨城県坂東市）で藤原秀郷（倭藤太）らに討ち取られた。京都で晒されることとなった将門の首は関東めがけて空に飛び上がったものの、途中で力尽きると落下してしまった（『前太平記』）。こうした伝承は日本各地に残されているが、東京の在地伝承では、地に落ちた将門の首を埋葬したのが大手町の将門塚（首塚）だと語られてきた。江戸期の首塚は酒井雅楽頭家の敷地内に位置しており、明治に入るとその一帯は明治新政府の大蔵省所有となつて庁舎が建設された。しかし大正十二年（一九二三）の関東大震災で庁舎は焼失し、再建のために首塚は取り壊された。すると大蔵大臣の急死や職員の傷病などが相次ぎ、これらは将門の怨霊によるものだと噂された。昭和に入ってから庁舎の焼失や米軍作業員の事故死などが将門の祟りと関連付けて語られた。戦後、首塚周辺の土地が民間企業の所有となつて以降も、近隣のオフィスで働く人々によって首塚は畏敬の対象となっている（室井康成『首塚・胴塚・千人塚』）。

第一五回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…十一月二日（土）一四時～一六時

本館四階 四〇一講義室

出席者…学生五名、教員一名。

【確認事項】

- ・ 次回の研究会は 十一月九日（土）
- ・ イベント本番は 十一月一六日（土） ※参加者の集合は一三時二〇分だが、我々スタッフは一三時頃を目途に集合。

【本日の作業】

- ・ マップ班…全員で打ち合わせをしつつ、全体地図および各コース地図のデータをすり合わせた。また、各マップの問題点を修正した。
- ・ イベント班…当日のポイントごとの案内内容、移動中の案内内容や注意事項を詰めていくこと、また、イベント班三名を中心に作業を進め、全体に共有していくことを確認。

【協議事項】

- ・ マップ印刷について
 - 一六日の本番で配布するマップはベータ版、つまり「千代田区怪談お散歩マップ（仮）」扱いとしつつ、研究室で印刷することとなった。（必要部数は多くても三〇部）
 - ↓当日の反省点や参加者の声をマップに反映してから業者に印刷を依頼する流れに変更。
- ・ データ統合担当者…本日の修正データを受け取り、来週木曜に統合版を完成させる。
- ・ チラシについて

担当者から受け取ったデータを印刷し、回覧。

↓学生二名の作業によって出来上がったエントリーフォームのQRコードが正しく機能することを確認。

・当日アンケートについて

当日は集合時にマップと感想記入用のアンケートを配布し、解散時に回収することとなった。

↓参加者に書き込んでもらった意見や、参加スタッフの反省点を踏まえてマップ完成版を作成させる。
その後、業者に入稿、印刷する。

第一六回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…十一月九日（土）十四時～一七時

本館四階、四〇一講義室 ↓今井研究室

出席者…学生四名、教員一名。

作業

・研究室で印刷したマップ二〇部をホチキス止めた。

（追って追加一〇部ほどを印刷予定）

・イベント班…当日の案内内容を執筆中。担当三名と今井で文章をまとめていくことに。

↓案内内容とスケジュールを一本化してガイド役で共有後、当日スタッフに配布。

確認事項

一六日本番の役割分担。

・ガイド…三名。

移動中は列の先頭・中間・後方に配置。

・タイムキーパー…一名。

・安全管理…三年生。

当日の準備物（全て今井が準備、持参）

- ・マップ（三〇部） ※参加者・スタッフ用をあわせた部数。
- ・アンケート（二〇部）参加者用
- ・スケジュール（一五部）スタッフ用
- ・出欠確認用の名簿
- ・救急セット

当日の安全管理について

- ・最寄りの病院・警察 ↓スタッフ用のスケジュール表に連絡先を掲載。
- ・何か疑問・問題が生じた際にはすぐに今井に連絡すること。

イベント後の課題…マップのバージョンアップ

- ・当日アンケートやスタッフの反省点を踏まえてマップ完成版を作成し、業者に入稿する。
- ・地図のルートを変更（より多くのスポットを一筆書きで周るようにルートを引き直す）。

※イベントではガイドによる案内を最優先するが、マップでは各ポイントを線で結ぶ。

- ・病院、警察、横断歩道、トイレなども可能であれば盛り込む。

確認事項

一六日本番 当日配布マップはベータ版とする。（研究室で印刷）

当日アンケート。スタッフの反省点を踏まえてマップ完成版を作成、業者に入稿する。

第一七回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…一二月一四日（土）一四時～一七時

本館四階、四〇一講義室 ↓今井研究室

出席者…学生七名、教員一名。

議題…今後の活動について

★マップ完成に向けて

- ・前回マップに含まれていたミスなどの修正。（詳細はこの日、共有済み）

例…大奥の怪談を示す火の玉および江戸城イラストを正しい位置に移動。

- ・追加フィールドワークの実施

一月一日（土）江戸城コース ※皇居の散策コースを確認する。

- ・各コースのルート変更 ↓一筆書きで歩けるように。

- ・全体マップのページに千代田区地図の全体をおさめる。

（区の境界を蛍光マークし、外側をぼかす、など）

- ・難読の固有名詞などにルビを振る 今井↓データ統合担当者。

- ・新規イラスト追加およびイラストの場所など変更 ↓データ統合担当者。

★データ作成アルバイト（特に作業量の多くなる地図班四名に依頼済み）

- ・一月中（二五日までを予定）。五時間×一〇日間、で各自予定を組む。

★マップ印刷の予定

一月二二日（水）一七時、マップのデータ完成（予定）。

修正ある場合、二三日までに作業担当者へ修正依頼。

↓一月二五日（土）統合担当者、データ統合。

↓最終チェックの上、今井が印刷会社にデータを送信。

★千代田区での三月二日（日）報告会について

- ・ 学生および教員で参加すること。
- ・ 詳細は追って詰めていく。※スライド資料の作成など必要。

★報告書の作成に向けて

- ・ マップデータのカラー収録。
 - ・ 共立ウェブサイトに掲載されたイベントニュースの収録。
 - ・ 各回の議事録、イベント報告、当日アンケートの分析結果。
 - ・ マップ制作、イベント実施に関する感想、反省点。
 - ・ 千代田区の江戸怪談に関する補足資料（収録できなかった怪談や参考文献など）。
- ↓三月初旬にデータ入稿、中旬に納品。

現地踏査（番町皿屋敷コース 追加調査）報告

日時…一月一八日（土）

出席者…学生五名。

番皿コースの再検討を行った。

- ・ その結果、マップ番号一番「帯坂」と二番「化け物屋敷」の番号を逆にすることに決まった。
- ・ 法眼坂（現…行人坂）は目印が存在しなかったため、東郷公園と法眼坂の間の交差点をマッピングする案がでた。
- ・ 桐生稲荷（お菊稲荷）は築土神社の前に行くことになり、その途中で東京大神宮があることを確認。

・桐生稲荷や築土神社へ向かう途中には坂が多く、高齢者がこのルートを歩くことになったら辛いかもしれないという意見が出た。

遠回りになるが別のルートを検討する必要もあり。

・市ヶ谷駅出発の築土神社解散という流れは変わらず。詳しいルートについては追ってデータで共有を行う。

【当日の時間表】

市ヶ谷出発（一三〇七）、帯坂到着（一三〇一）、帯坂出発（一三〇一）、三年坂到着（一三〇一七）、三年坂出発（一三〇二〇）、東郷公園到着（一三〇三〇）、行人坂到着（一三〇三五）、靖国神社到着（一三〇五〇）、（休憩&この後の道順の再確認）、靖国神社出発（一四〇一七）、桐生稲荷到着（一四〇二九）、東京大神宮到着（一四〇三四）、富士見児童公園到着（一四〇三九）、築土神社到着（一四〇四八）、（ここからは折り返し）、東京大神宮到着（一四〇五九）、桐生稲荷到着（一五〇〇一）、靖国神社到着（一五〇一一）、靖国神社出発（一五〇二五）、東郷公園到着（一五〇三四）、市ヶ谷到着（一五〇四七）、解散

第一八回「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト研究会 議事録

日時・会場…三月一日（土）一三時～一六時半。

一一一五今井研究室。

出席者…学生五名、教員一名。

議題…明日の千代田区主催「ちよだコミュニティラボライブ！」について

- ・当日の流れを確認。当日流す動画を視聴。
- ・役割分担
- ・学生の口頭発表で使用するパワーポイント内容の確認。
- ・口頭発表の内容 読み原稿の作成、共有。

学生・教員による活動の振り返り

学生

地図班として、現地調査や文献調査からパンフレットへの落とし込みまで、一貫してデザインに携わることができ、とても貴重な経験となりました。プロジェクトの前にデザイン系の授業を履修していたため、地図の見やすさを優先した色選びやレイアウト調整など、細部にこだわる改訂作業に活かせたと思います。しかし、今回はフィールドワークの情報を反映しつつ、さまざまな文献、古地図、地理院地図、Google マップなどと睨めっこしながら編集を進めたため、情報の選択や整理の難しさを改めて実感しました。特に地図班ではデザインの改訂が多く、日付や時間を記録しながら細かくバージョン管理を行うほどでした。

それでも、今井先生をはじめ、プロジェクトメンバーと和気あいあいと試行錯誤を重ねながらパンフレットを完成させる過程は、とても充実しており、まさに青春のような時間でした。(KH)

一年間頑張ってきた活動に関して、「ちよだコミュニティ ラボライブ！」発表の場があることで達成感をより実感することができました。また、他の千代田区の大学の活動を知ることができて、とても楽しかったです。自分たちの活動の発表のときに、他大学の先生や学生から質問や感想を頂けたことが興味を持ってくれていると感じることができて、嬉しい気持ちになりました。

今までの活動を振り返ってみて、役割を決めて、期限までにどれだけ完成度を高めていくかが大変でした。文献集めだけではなく、地図作成の技術が必要だったり、当初想像していたよりも時間のかかる作業ばかりでした。また、お散歩イベント当日の参加予定のお客さんの数の変動の対応に少し苦労しました。たまたま今回は私の友人も含まれていたのですが、連絡はすぐ取れましたが、もし一般の方で、なかなか連絡が来なかったら、と思うと、そのような場合の対処はどうするべきかなど、イベント運営について考えさせられました。

また、フィールドワークを行うとき、事前計画をあまり入念にやらなかったときのほうが多かったこともあり、何

度もルートの修正などでフィールドワークを行うことになり、楽しく活動することはできましたが、日程や体力的にきついこともありました。もし、今後同じような活動があるなら、フィールドワークの事前計画は入念にやる必要があると思いました。(KM)

ちよだコミュニティ ラボライブ！に参加して、第三者からの反応をリアルタイムで得ることが出来ました。質疑応答を通して、もっと盛り込みたい内容や新しいアイデアなども出てきました。内輪だけではなく、もっと広いコミュニティで関わり合うことの重要さがわかりました。また、大学の関係者以外の方にも、「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクトを知ってもらいたい機会になったと思います。逆に、私たちが他の大学の活動について知ることも出来ました。意外と他大学の人と関わり合う機会が少ないのでいい経験になりました。研究内容の中に重なる部分もあったため、新しいアプローチ方法を模索するきっかけになったと思います。プロジェクト全体を通じては、怪談のマッピングを踏まえて地図にするのが大変だった記憶が印象に残っています。しかし、そこから江戸時代と現代の地理関係の違いを知ることが出来たり、知らなかった怪談や地域的情操を知れたりと新しい発見ができて、楽しかったです。(NH)

今回のプロジェクトでパンフレット制作を担当しましたが、DTP演習で学んだデザイン技術を活かして実用性のあるパンフレットを作ることが出来ました。細かい修正や相談を繰り返し苦労する時期もありましたが、完成した実物を見た時に制作を担当して良かったと思う程の達成感が湧き、今後の生活にも繋げられるような良い経験を積むことが出来ました。また、研究発表を行った時には他大学の発表も聞きましたが、興味深い内容が多く知見を広げる良い機会にもなりました。(YN)

今回、多くの江戸怪談を採用した随筆『耳袋』自体あまり馴染みがなく、ひとつひとつの文章読み解いていくことが大変でした。しかし、知らなかった話も多くあり、楽しみながら進めることが出来ました。今回、ちよだコミュニティ ラボライブ！に参加して、全く違う視点で千代田学について研究していることを知り多くの刺激を受けること

が出来ました。またワークショップを通して千代田区民の方と交流を持つことが出来ました。大学に通うだけでは分からない、この地域の中のことを知ることもでき、イベント情報なども得られたため、これを活用し、もっと千代田区について知りたいと思いました。(SH)

まず、私がこのプロジェクトに参加した理由は、消極的な自分から一歩踏み出したいと思ったからです。人前に立つことや自分の意見を主張することが苦手でしたが、同じプロジェクト参加者である先輩方や先生からのお声がけもあり、僅かながらお散歩マップ完成に向けて意見を交わすことができたように思います。自分達が構成を練り、考えたものが形になっていくことがとても嬉しかったです。また、話し合いをする際にお菓子を広げたり、カフェに足を運んだりしたことがとても楽しく、思い出に残っています。

お散歩ツアー当日は、タイムキーパーとして皆さんの後ろを歩く役割でした。しかし、次に機会があれば自分達が作り上げた成果を堂々と発表できるように挑戦したいです。三月の報告会には参加できませんでしたが、このプロジェクトに参加して良かったと思っています。(NA)

お散歩マッププロジェクトには、マップ制作と発表で参加しました。現在のゼミでは縦の関係性が薄いため、今回のプロジェクトに参加することで他の専門領域も含めた、縦の関係性ができたことがひとつ良かった点だと思います。研究会では、文献を読むことに加え、地図内の情報や、フィールドワークで得た情報、そして説話の内容に考慮して「〇〇辺り」とされていた文章を地図上にマッピングしました。このように、現在の地理との照らし合わせが難しい説話がいくつかあったことが一番難しかった点だと思います。フィールドワークでしか学べなかった、実験でしか得ることの出来ない学びを実感しました。

ラボライブ！では、発表に加えて、他の参加者との交流もありました。特に、各ブースでの発表やワークショップが終了した後に用意されたディスカッションの場では、共立リーダーシップを発揮し、同じテーブルについて他のグループの方々の発言をまとめて司会進行を行いました。また、その後のテーブルごとの報告の場でも発言の機会を得て、テーブル全体で出された意見をまとめあげることが出来たと思います。千代田区の怪談に関わることだけではな

く、挿絵をはじめとして自分の仕事を仕上げることやリーダーシップなど、想像していなかった能力を使用する機会も多くありました。(WM)

教員

学生主体の活動を目指しつつ、一年間にわたってプロジェクトを主導してきた。もちろん、学生任せにできない部分が多々ある一方で、意外にも、いつの間にか調査やデータ作成が進捗していて、定期的な報告を受ける際、いい意味で驚かされることもままあった。学生に委ねること、逆にこちらで指示・監督すること、そのバランスに悩みつつも、学生たちが示したチームワークと根気強さ、そして何よりも、それらの下支えとなっている学生どうしの仲の良さ、明るさのお陰で、こちらも楽しい時間を過ごすことができたように思う。

参加学生の募集に当たっては、研究代表者が担当する授業での呼びかけ、顧問を担当している「まんが研究会」を通じての呼びかけのほか、教授会時に教員各位に学生への声かけを依頼したり、学内にポスターを掲示するなどし、四月の研究会開始前の時間を使って説明会を実施した。結果として、継続した参加の意思を示したのは一〇名となった。四年生や大学院生は多忙ゆえに後半の研究会やイベントへの参加が困難となってしまうものの、プロジェクトのスタートダッシュにあたっては、後輩に対しての資料調査アドバイスやアイデア出しなど、大いに貢献してくれた。振り返ってみれば二〇二四年四月以降、翌年三月に至るまでの研究会だけで全十八回、そこに、活動報告に記してある教員・学生でのフィールドワーク、学生のみでのフィールドワーク、二〇二四年十一月のお散歩イベントや二〇二五年三月の区役所での口頭発表を加えると、二十回を優に超える活動を行ってきた。それ以外にも、電子メールなどを用いてのマップ作製に関する学生間のやりとり、学生・教員間でのデータやりとりは数えきれず。マップの最終調整に関するデータ入力アルバイトも含めて、ただでさえ忙しい学生たちは、本当によく頑張ってくれた。それに応えるべく、教員も日常の教育、研究活動の合間を縫っては少しずつ区内のそちこちを歩き回り、情報の隙間を埋めようという心がけてきた。

プロジェクトの進捗については、研究会の議事録における「今後の予定」の変遷を見ても明らかのように、当初の想定から二転三転しつつも、なんとかイベントの実施や成果物の刊行に漕ぎ着けることができた。スケジュールの変

遷に関しては、たとえば、権利関係をクリアしつつ、ちょうどよい内容の地図データを探し、その利用申請を完了するのになかなか手間取ったり、また、二〇二四年の夏季が想定以上の酷暑であり、秋の気配が漂うまで、なかなか学生たちとの本格的な現地踏査（フィールドワーク）を行えなかったこと等々、様々な要因がある。もう少し余裕をもった計画にしておけばよかったと反省する一方で、「お散歩ツアー」イベント実施前に想定していた計画がかなり前倒しのタイトなものであったからこそ、なんとか一定の成果としてまとめることが可能だったという実感もなくなはない。いずれにせよ、学生とともにプロジェクトを進めていくことの楽しさと困難さを痛感する一年であった。

成果物である「千代田区怪談お散歩マップ」については、一般向けの分かりやすいパンフレットを目指したことにより、逆に、盛り込めなかった情報も多く残った。成果物は表紙を入れて全八頁に過ぎないが、その紙背には、学生たちが集めてきた、江戸期の千代田区、現代の千代田区に関する様々な情報が詰まっている。今後、もし何かしらのかたちで本プロジェクトに連なる活動が行えるのであれば、そうした部分を補いつつ、新たな発想を盛り込んだプロジェクトとして展開していきたいと考えている。

最後に重要な余談をひとつ。本プロジェクトの成果を外部に発信する「ちよだコミュニティラボライブ！」参加の際、少し早めに千代田区役所ロビーに集合した正午前のこと。学生たちが、区役所の真ん前を足早に異動する小型の獣を発見した。学生たちは口々に、アライグマではないか、ハクビシンではないかと言っていたものの、役所の入り口を出てその後ろ姿を追いかけたところ、道路を横断して皇居方面に姿を消したのは、どうやらホンダタヌキ、すなわち日本在来種の「狸」のようであった。普段は皇居周辺に棲息する個体であろう。なお皇居におけるタヌキの生態については、近年においても複数の論文が発表されている。東京のど真ん中に位置する皇居一帯には、今なおタヌキが棲んでいるのである。さて、タヌキの後ろ姿を追いかけつつ思い出したのが、「千代田区怪談お散歩マップ」で紹介した最初の怪談「1 番町の化物屋敷」である。この話では、番町辺りの屋敷に呼ばれた町医者者を驚かせた一つ目の化物の正体が、古狸だったということになっている。

そうした意味ではまるで我々に、狸が「まだ、ここにいるぞ」と語りかけてくれたようでもあった。江戸期から現代にかけて、現在「千代田区」と呼ばれているエリアは大きな変貌を遂げたものの、一部の自然や地形、建造物などはその面影を残しており、かつて江戸城であった皇居はその中核にあると言えよう。奇しくもプロジェクトの活動に

一区切りをつける直前、我々の目の前にタヌキとおぼしき獣があらわれたのは単なる偶然に過ぎないが、その偶然が示す、過去と現代との接続は重要である。勝手な思い込みではあるものの、江戸の名残りを今に伝える狸たちの期待に応えられるよう、今後も様々なかたちで千代田区の怪談を語り継いでいきたい。（今井）

本報告書は令和六年度千代田学の助成を受けて発行しました。

本プロジェクトの活動および、お散歩マップ・報告書の発行にあたっては、千代田区役所、千代田区観光協会（観光案内所）、千代田区立図書館、ちよだボランティアセンター、国土地理院、共立女子学園内の関連各部署をはじめとして、多くの方々のご協力を得ました。末筆ながら心より感謝申し上げます。

千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト…
共立女子大学 今井秀和研究室および学部生・大学院生一〇名

令和六年度千代田学報告書
千代田区の伝承を未来に引き継ぐための「千代田区怪談お散歩マップ」プロジェクト

編集 共立女子大学文学部 言語・文学領域 今井秀和研究室
発行所 共立女子大学文学部 言語・文学領域 今井秀和研究室
〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋二-2-1
発行日 2025年3月31日

印刷・製本 有限会社ヤマダスピード製版